WASON
Apr
209

女學雜誌

第二百九號目次

社說　安息日
開書　東洋英和女學校凶變の事
論說　廢娼の精神及其順序(島田三郎)
批評　益軒の敎育法○小說史稿(雲峰子)○詩人ブラウニング(上)
雜錄　懸賞答文○敎育的小說(みどり)○閨秀小說家答○櫻井勉夫人の葬式○樂しまんが爲あり○世の中は○家の手わざ
小說　野邊遊び(ゆかり)
寄書　米國費府の慈善家「モリス」氏(井上誠之助)○春(清艶女史)○坐右日記の一節○風前雨裡春空老○歌
開書　再び有樂堂主人にまいらす(常盤木千代子)○交詢
時事　櫻散る○三黨三色○外山正一君○宣敎師方の女學校○僧侶の議決○脅迫狠藉○夫の凌辱○支那の井上馨君○ビスマーク公○廢娼記事
女報　敍任○美術學校女子部○產婆受驗者○國の基○女速記○ケンシツト孃○大和の孝女

Take courage; I see here the foosteps of men.—G. H. Lewes.

咄々大怪事

近頃ろ一府八縣の美人を集め、美人共進會なる者を開かんとする惡むべきの商人あり、而も慈善の二字を冒し、人類を家畜器具の如くに取扱ひ乍ら、之を仁業と僞はるものあり、怪事何ものか之に過ん、吾人は彼の活人畫にすら大反對を絶叫しつるもの也、況んや此の醜極の營業をや、然るに今日內國大博覽開設の時府下万國人輻輳の節に當り、如此惡業を企つるものあり、內務大臣は風俗取締の爲め速に之を嚴禁して可也。

告內務大臣

四月十九日發兌　第二百九號　一冊定價六錢

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 209. 19TH, APRIL, 1890.

EDITORIAL :—The Sabbath Day. The Tragical Event at the Toyo-Eiwa-Jogakko.

LEADING ARTICLES :—The Abolition Question and Methods of Movement.

CRITICAL NOTES :—"Ekiken's Educational Method." "The History of Japanese Novels." Robert Browning as a Poet,

MISCELLANEOUS :—Prize Essay No. II (The Girl Student's Retrospect.) Educational Novels. Answers Received from Lady Novelists. Mrs. Sakurai's Funeral. The House-wife.

CONTRIBUTED ARTICLES :—Mr. Morris, a Philanthropist of Philadelphia. The Spring. A Leaf from the Diary. The Transient Spring. Poems.

OPEN LETTERS.

NOTES AND NEWS.

CONCERNING WOMEN.

第二百八號目次

社説　先生論○女子と獨立○二種の青年を見る

論説　ゼンチス、ミルラー夫人の改良服(在米國賓府ミス、エルキントン)

批評　廢娼○雜誌の時代、新聞の時代○讒訴輿論○國文國史○同志社の發起者、設立者、創立者

雜錄　閨秀小説家答○ブラウニングの逸事(雲の舍主人)○モロカイ島の新ダミエン(碓氷山人)○敬字先生の詩○智力の遺傳○おかげ參り○和歌の浦波(地袋清風)○きよめぬ庭

小説　野邊遊び

寄書　淫用物の賣買嚴禁すべし(大和郡之助)○蓄妾の弊○和歌十首

開書　ラーツ氏を送り、同夫人を慰さむ○東洋英和女學校の女生徒諸君に告ぐ○突詢

時事　皇后陛下養蠶家を見玉ふ○同志社新校長○時事彙の廢娼論○七十五日○眞の流行、假の流行○今后天下太平○通信○廢娼記事

女報　女子高等師範學校○跡見女學校卒業式○其他數件

WOMEN IN JAPAN.

Rev. Hiromichi Kozaki succeeds the late Dr. Niishima as head of the Doshisha Institution.

Four questions about novel-writing had been sent to female writers of the day, and answers have been received from five of them.

Two Ladies connected with the Azabu Girls' School are soliciting the making of a purse for the benefit of Mrs. Large whose husband met such an untimely death last month.

Meiji Jogakko has added some electric studies to its already existing courses besides introducing a new accomplishment of using "naginata." (halberd.)

The 1st No. of a monthly paper to be the organ of the "Young Men's Anti-prostitution Association" appeared on the 5th of this month.

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

一

（主人）三や、之は大急ぎだ、直ぐに持て行てお呉れ。

一

二

（お三）權助どん〳〵、之は大急ぎの御用ださうだ、直ぐに持て行てお呉れよ。

二

三

（權助）エー、馬鹿〳〵しい、面倒だ、馬丁どんに頼んで置くべい。

三

四

（馬丁）サ、大變だ、スッカリ忘れッ仕舞つた。チイ〳〵コックさん、町へ行くの、じやア氣の毒だが之を屆けて呉れ玉へナ。

四

五

（コック）承知はしたものゝ詰られへヤ、チヨツ、お梅どんが買出に行くカノ、アレニ頼まう。

五

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

六

（お梅）ダッテ、夫はお前さんが頼まれたのだから、お前さんが届けるがイーヤナ。

（コック）イヤニ、意地の悪いことを言ふノ、序でだらうから届けて吳れと言ふんだナ。

（奥方）コレ／＼何を八釜しく言ふのダエ、ナニ旦那のお使ひ、まだ其處にあるのかエ。

六

七

主人の獨り言、マヅよしさ、大方た今頃ろは先方に届いたらう先づ安心／＼。

七

八

奥方馳け來り、アナタ、大變ですよ、先刻のお手紙がまだ届きませんよ、此處にあるんですもの。

八

九

（主人）ソリヤア、大變、ジヤア己が行かなキヤならん、上衣はドコダ、杖はドコダ、これぐづ／＼するナ。格言に云く、急ぐさきは初めより人に頼む可らず。

九

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌　第二百九號　明治二十三年四月十九日發兌

社説

安息日

蘭學行はれてより休日を譯してドンタクと呼べり、而して西洋の風に倣らひ日曜日を以て休日と定めたる時より、則はち日曜日をドンタクと稱し、土曜日を半ドンと號す、於此乎上み八省より下も諸學校諸商店に至る迄で、半ドンに半日を休み、ドンタクに全日を休まずと云ふことなし、然れども彼等は何の故に斯く一週一日の休日を定別するか、殊に翌一日を休むにも係らず其の前の日に更に半日を加へ二日引續きて休息するは何の由緣なる乎。

官員は國民より調收したる租稅を食むもの也、故に戰々兢々として其勞の足らざらんことを恐れ、半晌の時と云へども決して空費すべきものにあらず、然るに彼等は何故に一週一日を休まざる可らざる乎。其一週に一日を休むとは寧ろ辨解すべし、何故に更に半日を休まざる可らざる乎。もし實に一週更に半日を休まざる可らずとせば、日曜日に一日を休み、水曜日の比に半日を休むの方更に得策なるにあらずや。然るに彼等は二日引つゞきて休む也、而して彼等自身と云へども其の事の何の故に必要なるかを知らず、政費節減に熱心なる經濟論者と云へども亦その何の故に必要なるかを知らず。

解くものありて云く、之れ西洋風に倣らふ也と、然り恐らく西洋風に倣ふことなるべし、然れども西洋諸國は何故に如此く度を過ごして休息する乎、万人皆な云はく西洋人は勤勉なりと、然れども彼等如此く過度に休息して尙ほ果して勤勉なる乎、吾人いよ／＼之を疑がはずんばある可らず。

但だ夫れ西洋諸國の日曜日と我國の日曜日とは光景天地の如くに相違するなり、歐米連邦のうち、大英國、及び米洲合衆國内の尤とも進歩したる所ろに至れば、日曜日は一週間に於て最とも靜肅なるの日なり、而して我國に於ては其の最とも喧雜なるの日なり。一六居士ドンタクを譯して呑澤となす、蓋し澤の如くに呑むの意あり、故に邦人往々此日を以て遊興放蕩の日と心得、當日若し出遊醉興せずんば寧しろ一日を失ひしが如く感ず、酒樓は特に此日を當にし、遊女場も亦た特に此日を當にし、彼の文明國に誇らんとする內國勸業大博覽會すら尙ほ特に此日を當にするなり、日曜日は我邦人に取り

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ての遊びの日、歡樂の日、宴遊の日なり。然るに文明國中の尤も進化したる所ろに至れば、狀況總べて表裏し、日曜日に於ては轟々たる車の響きもたゞ水の潺湲たる音に代り、人摩轂擊せる往來は春の夜中の如くに靜かなり、ゆきゝの人は服を禮にし特に謹しみて應接す、馬も走ることなく、犬も吠ゆることなく、子供も遊ぶことなく、万景總べて是れ夢中の樂園に似たり、只だ杳々として天空にひゞくものは寺院の鐘にして、時ありてか唱歌贊美の聲風のまに〳〵街頭に渡る、正に是れ、

All bells rang for joy......the city shine like the Sun; the Streets also were paved with gold & walked many men with crowns on their heads, palms in their hands and golden harps, to sing praises withal—Golden city.

如此く日曜日は彼の國民に取つての謹しみの日なり、考への日なり、沈潜愼思するの日なり。夫れ日曜日に於ては如此く淸く謹しまんことを欲す、此に於てか更に其前日の半日を休み、一週内の事務を整理して翌日は快よく安息せんことを欲するなり、彼等に取りては日曜日は實に眞の安息日なり、然れども邦人に取りては日曜日は寧ろ騷動の日なり、故に邦人の月曜日は大率ね怠慢睡眠の爲に奪わるゝことあるなり。夫れ同じく此れ日曜休息の日となす、而して東西趣を異にすること如此く甚し、邦人は西洋に傚ひて之を休むと云へり、然れども其實は反つて之に傚ふにあらずして寧ろ之に正反對の事を爲す也。吾人必らずしも西洋の風習を以て悉とく善なりとするものにあらず、然れども彼等が如此く一週一日を區別するの風習に至りては、極めて至善を得たるの習慣なりと思惟す。一種の宗敎家は曰く、神六日にして宇宙を作り、第七日に至りて休み玉へり、故に人間も亦た第七日に至りて休まざる可らずと、又一種の宗敎家は曰く、昔し神預言者に告げて、汝等日曜日を淸く守れよと命じ玉へり、故に吾等は之を淸く守らざる可らずと、然れども吾人は不幸にして未だ如此き說法に服するものにあらず、但だ夫れ、人類の肉躰を思ひ、社會の交際を思ひ、道德の進退を思ふときは、人や必らず時を定めて休息せざる可らず、而して其の時を定むるや必らず社會普通に之を約定せざる可らずと思ふなり、此に於てか日曜日を聖別し、土曜日を半休するの風習を以て尤とも便利あり價値あるの制度なりと信ずるもの也。

人は晝働らきて夜眠る、一日の間だにも必らず休息なかる可らず、此休息は啻に彼等が身躰を休むるのみにあらず尙ほ彼

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

等が精神をも爽快にし希望をも新鮮にするなり、人の勢力は長續連進すると至りて難し、時に之を休め、時に之を轉じ、暫らく英氣を貯蓄するときは后ち亦た新たなる勢ほひを生ずるあり、一日勞働し一夜安眠するの益あるは之が爲め也、而して一日勞働の間だにも、尙ほ屢ば休息の時を置き、例せば一時間熱勉する每に十分間の休みを狹はさむ樣にすれば、精神常に快濶にして遂に厭倦を覺ゆるとなし、一週に一日の休息を爲し、此日は平生の職業を忘れ、世上の關係を忘れ、純然たる一の人間として悠々自適するとあらば、身躰の之が爲に休まるゝとは言ふ迄もあく、精神も新らしき活氣を吸ひ得て元氣自づからに快復すべし。古來大艱難の要衝に當りて能く之に耐へたるの偉人を思ふに、彼れ大率ね胸中に閑日月あり、其の事に當るや宛がら泰山を負ふが如し惣べての困苦皆な彼が上に覆ひ掛れり、彼れ如何に剛氣勇猛ありと云へども若し終日終夜つねに此の苦界に立たば忽ちにして倒るべし、然れども彼は能く思ひを轉じ氣を休めて安息するとを得、或は戰塲に笛を吹き、獄内に賛美歌を唱へ、劍戟の中に梅花を插はさむの餘裕あり、於此乎彼れよく悠々として遂に大事を成就するなり。人の浮世の行路を旅びするを譬へば戰に臨み劍を渡るが如し此間豈に亦た時に安息するの餘裕なかる可けんや。某氏鬱積して自殺す、ウエルリントン之を評して曰く、彼にして若し安息するとを知らば恐らく死なざりしならんと、噫世人時に安息せざるによりて困死する者抑そも幾干ぞや。

すでに如此く安息するとの利益なるを知る、然れども斯あらんには酒を飮むも可なり、出遊するも可なり、騷動するも可あり、必竟其平生に爲す所ろを棄て、他に思ひを轉じ以て遊樂するとあらば則ち可なりと云ふものあらん、實に然り、その斯の如くにだに遊樂するは其の全く遊樂せざるよりも優れり、然れども如此き遊樂は遂に眞正の安息を來たさゞるとを記臆せざる可らず、夫れ酒を飮み、出で歩き、騷ぎ遊ぶとを以て此日の樂しみと爲さば、此日は即ち交際の日、宴樂の日、放蕩の日となるべし、苟くも斯の如くんば、此日は全く精神を昏醉せしむるの日、金錢を費やすとの尤も多き日、若くは人と交際し義理を立つるとの尤も面倒なる日となるべし、何れにしても之が爲に身躰に快絕の心地を覺え、精神に復活の元氣を得、翌る月曜日より新たなる勇氣を得るが如きとは到底望み得まじきもの也。此を以て將官は云へり、兵卒の尤とも怠り易き日は月曜日なりと、學校の教師は云へり、

生徒の尤もナマケル日は月曜日なりと、之を製造所の主人もしくは活版屋の取締に聞くに大率ね皆な同様の答を為す也、知るべし此類の休息法は遂に眞の安息を與ふるとなく、よし稍や之を與ふるとありとするも未だ最良の安息法を得たるものにあらざるとを、故に若し如此き安息法を行わんが為めとあらば、寧しろ一日〳〵に少しづゝ左様になすとの反つて入費少なく、くたびれの薄きに若かざる也。

然れども一週一日の安息を要するは、啻に其身躰及び元氣の為めのみにあらず、實に人類に最大切要なる其の道徳の為めに在る也、人もし時に一日を區別して深く人道神理の事に自省する所ろあらば、彼れ庶幾くは器械とならず、幸に人性を維持して其品徳の尤とも高尚なる部分を維持し伸張するとを得べき歟、若し苟くも然らずんば人は遂に俗世界の器械となり了すべきもの也。

人類に一百の性質ありとせよ、此一百の性質は悉とく社會なるものに屬するものにあらず、故に又た交際、職業、名譽、利達、等の事のみに屬するものにあらず、言を別にすれば、人類の性情中、世界に屬せずして天に屬するものあり、他界の為に存せずして其の自己の為に存するものあり。商人の商賣を為すは素と人間たるの務を盡さんが為め也、軍人のイクサを為すも亦た其の人間たるの務を盡さんが為め也、彼等が世に立つや商人たり亦た軍人たり、然れども彼等は全く商人たり將た軍人たるのみにあらず、必らずや其職掌商賣の外に更に人間としての道徳を存する所ろなくんばあらず、之を切言すれば彼等は其職掌商賣の為に生くるものにあらず、生くるが故に其の義務を盡すの方便として職掌商賣を為すのみ。此を以て、人は其の職務の為に働らくの外に、更に人間として働らかざる可らず、故に職務の事に勞働拮据するの外に、更に人間として愼思謹研する所なくんばある可らず、苟くも然らずんば、万人皆な是れ器械となれる也、此所に商人と云ふものはあり、彼所に軍人と云へるものはあり、東方に總理大臣と云へるものはあり、西方に草履つかみと云へるものはあり、然れども一人の人間と云ふべきものなしと云ふは、抑も何等大不幸の事ぞや。

故に宗教と云ひ道徳教と云ひ、凡そ人に道を教ゆるものは必らず之に愼思默想するとを命ず、其の愼思默想するときは、總て世の煩らひを去り、惣べての世の關わりを忘れ、純然無垢、唯だ一の人間として大道の前に靜座沈念するとを要す、

孔子曰く愼しみて思へと弟子之を以て日に三たび省りみ終夜道に違ふヿなきや否やを自問す、釋迦曰く一切の煩惱を去れと門徒之を以て數度たび坐禪し只管らに邪思を去りて眞如に到らんヿを勉む、クリスト曰く六日の間だ能く働らきて一日を神の前に費やせ、カイザルの者はカイザルに反し神の者は神に呈せよと、之を以て信徒皆な安息日に靈の爲に靜思せざるヿなし。夫れ安息の事何んぞ只だ基督敎にのみ限るものならんや、佛敎に於ては之を時々便利の時に於て續勤し、孔門に於ては之を日々朝夜に於て分省す、其他マホメットと云へども、ソクラチースと云へども、皆夫々に人間安息の事を重んず、何んぞ只だ基督敎に於てのみ然りと云ふヿを爲さん。但だ之を日曜日に於てせよと云ふものは即はち主として基督敎徒の言ふ所ろなりとす、而して其の如此く主張するの理由に至りては信徒の言ふ所ろ往々相同じからず、然れども吾人は如此く一定するヿの極めて便利なるを信じ、其の便利あるが故に如此く嚴守せんヿを主張するもの也。見よ人は晝眠り夜起きがたきにあらず、一日五たび食ひ之を自由の時に於てするは亦難きにあらず、然れども日に三度び食し、夜特に寢に就くの制度を一定するときは万人普通の利便少なからざるが故に即はち如此くなれる也、彼の安息日を日曜日に一定するヿ亦た當に如此きの理由に據るべし、於此乎、古人は土曜日を以て安息日と爲したり、亦ユダヤ人は金曜日の眞夜中よりを以て安息日と爲したり、然れども今人は日曜日一日を以て安息日に定む、日曜日と云へる一日の特に美なるにあらず、たゞ便利によりて之を聖別する也。

故に吾人は佛敎徒及び孔門の師弟に告ぐ、公等亦た其安息の日を日曜日に定めよ、之れ只だ基督敎の習慣に隨ふにあらず、實に文明國普通の習慣に從がひ、併て我政府の布告する所ろに隨ふもの也、夫れ如此く日曜日を以て普通の安息日とせば、此日や基督敎徒のみの安息日にあらず、諸宗敎諸道德敎の安息日なり、否な道德と宗敎との爲めのみの安息日と云ふヿ勿れ、實に人間の安息日にして人間當に人間たるべき道を愼思默想するの聖日にてあるべき也。

古來の大人は皆な愼思默想に依て生きたるの人也、人もし馬の如く猪の如く只だ前途を見て狂奔し、相撲取の膂力を角するが如く、競爭者の足力に誇るが如く、只だ仕事する爲に仕事し、働らく爲に働らき、所謂る衣食に奔走して只だ衣食するが爲にのみ衣食するヿあらんには、蓋し生て万靈を粹め天

地間に粹然として人と生れたるの甲斐あるとなし、彼は前后に顧みるの生物あり、天に訴へ道に從ひ卓然六合を跋跡することを得るの思考者なり、彼は只だ營々として勞働することに畢る可らず、必らずや一と度び大道に想接することなくんばある可らず、其仕事に於ては奴隷たるも一個人としては必らず其自己の爲に主人たるべし。

左れば、時に世より離れ、職業より離れ、位階族籍より離れ、純乎たる一人間として其の人道に監がみることを要す、吾人思屈し答を得るに難んじ、鬱々出でゝ山林に入れば、青蒼冷清、美情忽焉躍動して一乍直覺するとあり、如此くも世の關はりを離れて優然道に臨むときは道念頓に目さめずと云ふことあし、之れ人をして人たらしむる最良の教育也。

文部大臣もし德育法の最も有力あるものを得んと欲せば、安息嚴守の法を施行するに優るものなし、國民もし安息日を嚴守し、一週一日各箇それ〳〵にその良心を發揮して自省沈戒する所ろあらば、幾多の薄弱なる法師先生の講釋を聞くよりも効更に甚大ならん。アッチンソン其のカバーレー、サッバスに於て曰く、

余は田舍の日曜日を見て大ひに好みするものなり、彼の第七日を聖く消光すると云ふことをして若し啻だ一の人爲の制度たらしむるも、之れ實に人間を文明開化にする最良の法方たるなり、蓋し若し如此き定日週ごとに廻り來り、其日全村の民最良の衣を着け最温の顔ばせを呈し、相會して無我の淸談を爲し、其義務に關するの説法を聽聞し、謹しみて上帝を崇拜するの事あらざりせば、村民は久しからずして蠻習陋俗に墮落すべし、日曜日は實に一週間の汚塵を洗ひ去り、彼等が心中に宗教上の記念を新鮮ならしむるもの也、と。

故に安息日の制度は、無學者の爲にも、有學者の爲にも、未開の世にも、文明の世にも共に必要なり、然れども世開化し文明復雜の時勢いよ〳〵熟するに連れて更に其の彌々切要なることを見る。勞働追々過激と爲るが爲に之れいよ〳〵切要なり、勞働いよ〳〵規則立つが故に之れいよ〳〵切要なり、貧富懸隔し而して貧民の競爭益々激烈となるが爲に之れ亦たいよ〳〵切要なり。

而して安息日の守り方に付きては、專ばら道の爲に宜しきを得ることを主旨とす。彼のユダヤ人の如く、安息日には麥の穗も積まず、穴に落たる家畜をも救はず、病人の病をも療さず

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

と云ふの類は殆んど見戯に類す。况んや彼のカンチクチカツトの新移住民の如く、安息日には敎會往返の外は一歩を歩まず、庭の内すら歩まず、掃除することなく、炙焼することなく、髮を解かず、髯を剃らず、手を握らず、母は子供に、夫は妻に接吻もすることなしと云ふに至ては實に瞭解しがたきの制度なり。然れども此日は特に道の爲に愼思せんと欲するが故に猥りに出歩るかず、不切要なる交際上の集會に列せず、徒りの爲に飲食せず、物品を買入れず、寂然謹愼して獨樂靜居するは尤も可也、要するに安息日の主旨を辨じ、能く其の主旨を達するほどに謹愼し、且つ他の安息を破らざるほどに靜居するを以て本要とする也。

今人六日の間だ馬の如くに働らき、日曜日は更に豕の如くに貪食す、人間そもそも獸畜と去る幾何ぞや、吾人日曜日の特に放蕩兒を以て充滿するを見、慨歎に堪へず。夫れ天には淸き鐘ひゞき、堂には冷しき音樂を聞き、路上寂として車響なし、此日人は利を言はず、商人は物を賣らず、吾が家族各自靜坐して讀書す、夫は之を朗讀す、妻は之に和す、兒は之を暗誦す、婢は傍らに謹聽す、而してのち庭内に於て族人相ひ樂談し、若くは相携へて公園に入り草木を見る、平素親子兄弟主僕相ひ團欒することなし、此日終日相集まつて共に樂しむ、彼は其過ちを謝し、此は其悟を話し、樂境歡を得、歡裏樂しみを得る、人此に於て一日天國に在りと云ふべし。

吾人が知己に繁劇の人多し、彼等未だ宗敎を信ずるものにあらず、然れども皆な安息日を嚴守するを以て甚はだ利益ありとし、此日斷じて俗界の交際を爲さず。思ふに一度び之を試みたるものは皆な此の味わひを知らん、希はくは邦人早く此理を辨じ、日曜日を以て眞誠安息の日となさんことを、而して此の美風を造出せんと欲するときは、社會上流の士君子が先づ卒先之に當りて其儀を作らざる可らず、又基督敎家は特に之を嚴守して敢て世と調和することある可らざる也。

島田三郎
巖本善治　同著

公娼可滅

小本一冊
七十五頁

定價四錢。郵税一錢。

開書

東洋英和女學校凶變の事

拜啓。陳者此頃麻布東洋英和女學校に於て非常なる出來事候ひしに付ては、日々諸新聞にて其事實は明細に書き記されたれば、今更に該件に付御報道申可き事は御座なく候へども、猶ミセス、ラーヂの當夜の有樣を聞候に、力と頼みし同胞なる人、無慚の最後を遂げられ、剩へ女史自らも重傷を負はれしかば、其口惜しさ如何斗か、供に消なん心地のせられしは人情の尤も可然處にして、人間の最悲しき最恐ろしき極度に接したる女子は、此最も堪え難き憂苦を忍び、深手の痛さをも忘れ、能く校長の任を盡されしは、まとに敬服すべき事にして、女史の鏡ともなる可きとと存候故、大畧を左に申上候、文拙く候へば何分にも其聞し儘を書き連んは難き事に候故、事實丈けを申上候間餘白も候へば可然御記載被下度、同女史の不幸を哀み給ふ同感の姉妹に御知せ申、女子たる者は平生溫和柔順なるも、大變に遇ふ時に當りては此ミセス、ラーヂの如く膽の大ならん事を鑑み候はんには、女史の心を慰むるの端ともならんかと愚かをも顧みず申上候事に御座候。

扨當夜、ミセス、ラーヂは、此悲しむ可き境遇に接し、敢て精神を取り亂す如き事なく、少しも顚倒狼狽せず、生徒の物音に驚き、火事よ〳〵と叫びッヽ、奔り出んとするを押し鎭め Girls be quiet と云ひ、且大聲を揚けて兇賊の爲に罪を天に謝して言はれしは「主ヨ彼等其爲ス處ヲ知ラザルカ故ニ願くは彼等ノ罪ヲ許シ給へ」と之を明らかに聞止めたるは隣室に居られしミス、ハート氏なりと申事に御座候。此の時他の女敎師等は此の恐ろしき兇變に出遇ひ、殆ど其度を失ない、茫然として爲す處を知らざる有樣なりしを、女史は此等の人々に靜かに一々差圖を爲し、速に此趣を訴へざる可からずと山の上なる英和學校に人を遣り、敎師なる誰れ彼れを呼びに遣はさしめ、其他醫者を招く等の急を要する事、一として其命令に出ざる者なく、夫より受けたる傷所より滴る血しほを洗ひ拭ひ、醫者の來る迄、假りの繃帶を懸けさせ、良人の橫はれる寢臺の側に腰を掛け、同校卒業生なる若林りう子を呼び、宮の下に旅行中なりし校主平岩愃保氏へ電報をかけよと命じ、且其文言も然々する方宜しからんと敎へられたり。此時女史の顏の色は、已に絶命されしミストル、ラーヂと等しく、青く白く、唇の色は紫となり、見る者は如何に苦き事ならんと其心情を察すれば、眞に斷腸の思ひありしと、頓て痛く勞れたれば「ソーフハー」へ行きたしと云はれたり、此時は

人々漸く來りたれば、直に舁き抱きて、之によらしめたり。其中第一番に走せ付けたる探偵に面接し、始の程は日本語にて話されしも、込入たる所に至り、若林氏を以て通辨と爲し、其有し樣を語らるゝ事、殆ど平生に異なる事なく、明に徐かに言はるゝも、通辨する者の心は却て安からざる爲め、時に或は誤らんとすれば、否然々なりと再び言ひ直させ、一と通り終るや否や、續々入來る警吏探偵或は撿使盡く女史より其事實を聞かんと欲し問んとすれば、猶之れをも答へんとせられたり。然しながらこれ疲勞を增すの道理なれば、他より之を止めしよし。此時既に年若き日本人の醫者來り居りしに之れに向つて診察を請はれず、無程兼て信用あるドクトル、マクドーナル來られしに、使の實を告げずして只急病なりとの知らせにより、機械の携帶なき爲め、施術に由なく、再び其至るを待ちし間ゝ、能苦痛を忍ばるゝ樣、痛はしとも何とも殆ど名狀す可からざる有樣なりしと。此際と雖も、總ての手筈は自ら聞き、又命ずる等、何れも聞く事每、中〻尋常一樣の人には決して爲し得可からざる事にて、嘆稱するに餘りある事と存候。朝に至り、愛子ケイトの目覺めしを見られ、ケイトの無難にして斯く健かなる顔を見る事の嬉しさよと云はれたり。然るに此ケイトは年僅かに一歳二ヶ月、漸く此頃片言交りにパパ、ママと呼ぶ事を覺へ、殊に父ミストル、ラージを誰れよりも最も好みたれば、母親の常に變りたるを見て驚きたる樣子にて、パパ、パパと幾度となく呼び尋ねしには、流石氣丈のミセス、ラージも、之を見て悲みに堪へられずや、痛哭せられし樣は、子を思ふ親の情、目もあてられざりしと申事。又ミストル、ラージは、平素の言に、葬式に美麗の花を以て飾りするは、まとに無益の浪費なり、余は斯る事を好まずとありしを憶ひ起し、會送者は勿論、生徒の篤志なるもの花或は他の物品を備ん事を願ふをも謝絶されたるとは、又嚴肅にして平生に違はず、能く眞人の志を全ふされし事、亦餘人の出來難き事と存候。乍併永く厚情を交へたる知友幷に同校教員生徒は、此儘にして止むは如何にも本意なき事なりとて、私共一同協議の上、左の企を催し候半と、彼是奔走中に御座候。此れをも御序に御記し下被候へば幸甚の至りに候、草々敬具。

四月十一日　種田成子　水野峯子

女學雜誌社御中

明治二十三年四月四日夜東洋英和女學校々長ミセス、ラーヂ夫人の良人アルフレッド、ラーヂ氏兇賊の毒手に斃され剰へ校長も重傷を負れたるヿ實に意外の出來事にして妾等の驚駭追悼措く能はざるヿたり然るに送葬之際も氏の存命中の一言により一枝の花猶之を呈するを得ざりき蓋し氏の意たる强て金圓を募集し徒らに外飾をなすが如きを戒められしにあるは明なれども妾等に在りて追慕悼惜の意を表し聊か感懐を遣る所あらんとす因て左の定規を定め之を同感の諸姉妹に謀る。

種田成子
相磯政子
水野峯子

明治二十三年四月

一壹名金拾錢以上壹圓以下醵出するヿ。

一金圓は狀袋に入れ金高及び御名前を記し芝區西の久保巴町廿九番地種田成子宛にて來二十五日迄に御送附ある可し。

一追て醵集總額及び使用法は御通知申す可し。

論説

廢娼の精神及其の順序

島田三郎君演説

今日此の會の開けろと云ふ事の通知を受けましたは、三週間以前で御座いました、其節私は病氣で箱根へ參つて療養致して居りましたが、其通知を受けました時の考へでは多分三週間も經てば、全快するだらうと思ひましたから、此處(厚生舘)に出て演説致す事を約束致しました、處が東京に歸つて、又た、人から賴まれて演説したので、今度は咽喉加答兒を起して、只今は正に醫者の厄介を受けて居ります樣な譯ですから、此の大勢の御集會に對して、迚も滿足を與ゆる程の充分の發聲は六ケ敷からうと思ひます。何分にも御聞き苦しい處は御宥免を願ひます(謹聽々々)。

此の廢娼の事に就きましては、是迄も屢々當會の方々が演説も致し、又隨分反對の論も有る樣ですが、併しながら斯くまでに、世の中に娼妓の存廢が震動を與へたと云ふものは、全く同志の人々の此の事を唱へられたに依ると思ひます。又た此の事に就て深く私は、群馬縣下に於て率先して旗をあげられたる處の人々に謝さなければなりません、啻に是等の人々に向つて謝するのみならず、反對をなされた處の人々も、吾々同志者に參考を與へ益々其の説を確かならしめて吳れたのは、詰り世の中に利益を與へたので有ると云ふ事を謝します。私は反對論の出るのを喜ぶ者であります、何となれば凡そ世の中に大改革を行ふには、只「其の改革は大きに宜しい」と許り云ふ者のみでは却て失敗が有らうと思ひます、此の反對論と云ふ者が有つて其の事を辨駁し研究するからして、愈々議論が緻密に成ります。斯くの如くにしてこそ、始めて世の中に宜しい結果を得られるのである、故に反對論の出るに隨つて、吾々の前途に懷いて居る處の望みは愈よ堅きを覺えて、又益々吾々の自ら信ずる事を堅くしたのである、願くは吾が同志諸君には此の上も尙ほ撓まず御盡力をなさる樣に願ひ度い。それで私の今日御話しする事に就て、只今道德の上からは吾が敬愛する巖本君が充分の御演説が有りましたから、私は恰度實行の方法として意見を述べやうと思ひますが、議論の順序として或は重複に亘るとも御座いませうから、是も御容赦を願つて置きます。

此れまで世の中に出て居る議論の中には、大分名を同じくして實を異にして居る者が御座いますから、私は此の事を諸君の前に於て明瞭に解釋したいと思ひます(謹聽々々)。それは何かと云ふに、先づ此の廢娼の事に就ても、是れを大躰に別けて見れば、一方は存娼と云ひ、一方は廢娼と云ふから大邊に違つて居る、併し

ながら其の存娼の中でも能く仕譯をして見ると、廢娼を仕度いが未だ早いと云ふのと、社會に純然たる必要が有ると云ふの二ツである。又廢娼の中にも方法に、依つて二ツの違ひがあります一は全國の娼妓を一時に廢して仕舞はふと、云ふのと、一ツは先づ之を豫告して各地に漸時廢していかうと云ふ二ツで御座います。去れば存娼と、廢娼と、此の二ツに旗を別けて見れば、一方の極端即ち公娼は社會の必要物である、此の娼妓を廢せば社會の風俗を破ると云ふのと、又一方の極端即ち即時に全國一般の公娼を廢して仕舞うと云ふのは大に懸隔(かけはなれ)て居るが、ソレより少し寛なる間接に廢する方法、假令ば女子に工業を勵ますが宜しい、又教育を勵ますが宜しい、宗教家は宗教家の面目として之を廢する樣に誘導するが宜しい、左りながら已れは唯だ醫者だからして、各自其非なるを知つて自ら改める迄に至らん限りは社會に害の無い樣に、何う有つても存娼說に依て往かねばならんと申しますが、誠に此事が矛盾して居るから其の事は後で演べます。

斯くの如く存娼の中に急進黨あり、漸進黨有り、廢娼にも亦急進黨と漸進黨とが有りまして、此の極端と極端を較べて見れば余程違つて居るが、存娼の中の極く緻密なる論と、廢娼の中の緻密なる論とを比較して見れば、實に近いと思ひます。是に就て存娼論の尤不可なる者を演べますと、其の極端の「娼妓は社會の必要物で有る」と云ふ事を、儼然と主張して居らるゝのは則ち長谷川泰君で御座います。私は其の議論の支離滅裂なるにも拘らず、其の勇氣の盛んなるに感服して居る。彼の漸進說を執る所の人に比して見たならば、誠に勇氣の充ちて居る自ら信ずるの厚き者でなければ、中々箇樣の言葉は出されまいと思います(喝采)。左りながら其の議論は撞着して居つて、私の目を以て見ると、實に一笑にも當らない議論だと思います(喝采)又豫め諸君に申して置かなければならん事は、凡そ人々が職業上の觀察と云ふ者と、社界一般の觀察と云ふ者に就て、大に趣きを異にして居る者で、醫者なり衞生家なりが公娼は世の中に必要なり」と云ふ者は、其の人の職業の上より梅毒の傳染は人身に取つて最も大なる恐れある者だと云ふ考へを下だすは、是れ又職業上無理ならん事で有る。左りながら人間は形躰(からた)ばかりの動物では無いと云ふ事は、少し顧みて貰ひ度い(ヒヤ〳〵)ソレ故に私は先づ長谷川君の御議論より御咄しを致して見ませう。

長谷川君の說には、凡そ人間には情慾と云ふ者が結び附て居つて、如何なる者でも生理的の發達と云ふ者が起らなければならない、是れ社會に婚姻の必要が有る所以であるからして、其の身を過つ程の放蕩をしてはならんが、普通(あたりまへ)にして居れば此の公娼と云ふ者は、人をして活潑勇壯ならしむる者だと言つたが、私は此の御議論に對しては、誠に簡單なる辨駁を加へて宜しいと思ひます。それは他でもない、長谷川君の支配して居らるゝ所の濟生學舍を、吉原の中央、洲崎の近傍に置いて其の生徒を教授したならば、誠に適當に塾則が立つや否やと伺ひ度い事であります(大喝采)。凡そ地を撰んで少年を養ふと云ふ事は、教育家が第一に注意すべき事で御座います。ソレ故に日本橋邊の極く賑かな處に學校を立てるが宜いか、又野廣い閑靜の處に立てるが宜しいかと云へば、如何なる教育家と雖も必ず繁華を避けて閑靜なる處に、少年方を養ふべき位置を求めるであらうと思ひます。況してや長谷川君の御說の如くせば其結果は根津吉原洲崎の近傍に移して、生徒を養成しても差支ないとさなり實際上から私は不都合極まる御論だらうと言つて宜しいと思ひます。此の一點で私は長谷川君の御論の當らざる事は解からうと思ひます。

モー一ツ公娼を必要だと云ふ人に向つて御尋ね申し度い。それは何事であるかと申しますと、則ち、日本全國中公娼を許して有つて、人口の繁華なる處には繁華だけに配分して出來て居るのに、斯く「既に在り來つた處の者を除くと云ふのに餘程難い」と云はれるが、若し有り來りの物だから六ケしぬと言ふて何事も其儘で置きなば此の世の中を改良進歩して往かせる事は、何うしても成し得べからざる事で御座います(ヒヤ〳〵)。それだからして今日まで慣習と云へるものが人をして善ならしめたか、又惡ならしめたか、と云ふ事を考へなければならない。恰度彼の酒の如き者で御座います。昔しは書生の交りを致しまするには、酒を飲まんと交際が出來んと云ふ世の中であつた、其の時分は酒を飲まんと云へば書生の仲間外(はづ)れになつて、豪傑の仲間に這入る事が出來ませんでした、そして當時は箇程迄に泥醉し迷醉した者が今日に至れば、(未だ全く其害止まざるも)酒は惡い者だと云ふ說が世間の定見に成つた爲に、幾分か風儀も變つたと云ふ程で有ります。是を實際に參考して見れば娼妓が必要であると云ふも、一ト度其の惡い者だと云ふ事を確信して其の惡い事を唱ふる者が盛んになれば、彼の始め酒と云ふものが必要であると言つた者も、遂には酒の必要なるに非ずして却て第二の慣性が必要と思はしめたのである事を知つたと同じであると云ふ處に、目を附ければ直ぐ解かる事で有る。此故に私は今一ツ存娼論者に向つて問ふて見ますが、今存在する者を廢されては困るといふが、何故に以前より無き處に迄設け度いと言はんのであるか、是を置かれば社會は治まらんと致しますならば、今迄無き處へ迄設くるとが必要となりませう、然るに若し茲に今迄妓樓の無き處の者が新に設けたり、始めて許可を得度と、願出でたならば必ず如何なる存娼論者と雖も「マア〳〵是れは許さん

方が宜しからう」と申すので有りませう、然らば則ち今日の存娼論者は眼前に世の中に顯れた處の事物に眼を奪はれ、後へを顧み、前途を望むの眼力の乏しき人だと思ます(ヒヤ〳〵)其議論中の區別を致して見れば今娼妓を廢すれば非常の害を起す、其故如何となれば、是を破った處は密賣淫が盛に成る、盛になるに隨て人生實に恐るべき處の花風病が起る、「是を防ぐ事最も難し」と云ふのが衛生家存娼論者の金城鐵壁と思て居る所であるが私は是等は一大破裂丸を放て忽ち打破ぶる事が出來ると思ます。如何にして是を打破るかと云へば、第一に公娼を置けば必ず密娼が無くなると云ふ保證を與へて貰はなければならぬのに、私は何しても公娼を置けば密娼の害を拒ぐ事が出來ると云ふ事は信じられない。御氣の毒にも此のことたるや、吾々同志者の調べた統計表、「コレハ反對者より見れば其効力薄い者として」、反對論者の調べられたる統計表、則ち梅毒檢査表と云ふ物が有て病人を檢査したと云ふ衛生家の誠に信濫して居る處の統計表、何れに據て論じて見ても此說を保證することが出來ない、又既に長谷川泰君の演說中にも揭て有りましたる、明治二十年東京に公許の娼妓四千五百人、翌廿一年三月二日の調べが四千七百四十六人、是が東京公娼の數で有る、然らば是程の公娼が有る爲めに反對論者の言ふが如く他には少しも患が無して社界に道德の風儀が立つかと云ふに、實に意外なる事を長谷川君が擧げられて居る「或る警察官に問ふて見た處が、東京に居る處の密娼は一万人、其の外藝妓が千七百二十七人有る」と云ふた、そして長谷川君の此の事實に依て一段の論を結ばれたは如何で有るかと云ふに「警察官は是を一々縛り上げるか又は抑へ附けて是れに公娼の許可を與へなければならない、又た藝妓も同樣の取扱ひを仕なければならない」と云ふ議論をされた。彼れと是を比較したならば如何で御座いませう、則ち四千五百人の公娼に對して一万人の密娼で此の他に、長谷川君の眼に密娼なりと見認めらるゝ所謂る藝妓と云ふ者が許されて居る、然らば如何にして是を防ぐ事が出來ます歟、密娼の數は公娼の倍數よりも尙だ多いのでは御座いませんか……シて見れば公娼が密娼を拒ぐ事を得ると云ふのは、是れは根據の無い論で有ると云ふ事は明かなる暁しで、則ち儼然と旗を樹て居る衛生家の金城鐵壁は、長谷川君の御說に依て破れて仕舞つたと思はれます。又現時衛生家の唱へる處は「昔しは此の惡るい病に感染して其の身を害ひ路傍に徘徊して居る者を見受けたるに、今日は左樣なる病者を見る事稀なるが、是は何の爲めかと云ふに法律が有つて多の時間を費し檢査をするから人民に斯かる病が少なくなつたので有る、故に若し一朝是を緩むる事があらば忽ち往昔の如き害を來たすのである」と論じて居りますが、私は是れ程實際に背いたる議論は無いと思ひます。何故に實際に背いて居るかと云ふに、則ち反對論者の統計に擧げた處の一万人の密賣と云ふ者は、所謂る法律上少しも無いと認めて居る處の者では有りませんか。斯の如き者が世の中に成立つて居つても此の梅毒の少いのは私は啻に四千五百人の公娼に法律上の取締が有る故に非ずして、一般の人が互に注意もし又醫者の數が殖えて居り、殊には療治も旨く成つて居るから少し風の替つた病光でも有りますれば、直ぐに療治をして貰うからで有らうと思ひます。一般人の進步に依て此の變化を、致さずして、何故に一万人の檢査を受けざる者が東京に居りながら、斯く迄に惡毒が蔓延しないので御座いませう、僅かに檢査を受ける四千五百人則ち密娼の半數にも充たぬ公娼が、檢査を受けたればとて此の病の減ずる理由(わけ)は無い筈で御座います＝畢竟するに此の結果を得た者は公娼檢査の故に非らずして、一般人民の注意の厚きと、醫術の進んだとに依る者たるは明かなる暁しで御座います。然るを反對論者の如きは啻に檢査の上にのみ注意して、一般の實際の上には目を着けず、職業的の狹き見解より只眼前に顯れて居る處を言ふのみにて素より公平の判斷を下す事抔は出來ない者だと言はなければなりません(大喝采)。

反對論者は「同志者の調べたる者では證據が乏しい」と云て許さないかも知れませんが純然たる存娼論者の、然も社會に長く公娼を存せしむべしと云ふの衛生家、并びに教育家たる彼の長谷川君の御調べに成つた統計、殊には警察官吏の調べたる處の者で有るから、決して不充分の證據とは言はれますまい(ヒヤ〳〵)。シて見ると彼の檢査と云ふ者は、其の範圍内に於ては幾分か惡病を減ずるかも知れませんが、一般の上から看察すれば現時の病少きは「社會全般の人が早く此の害を防ぐ丈けの進步を成したからだ」と言はなければなりません(喝采)是れが極く明瞭の證據と思ひますが、若しも反對なる御方が有れば此の點に向つて確かなる辨解を乞ひ度いと思ひます。

然らば反對論者の唱ふる處で、道理的より論じても實際的より論じても、甚だ不適當なる說と言はなければならぬ(ヒヤ〳〵)只今私の演べたのは事實の疑問を決するが爲めに提出したる論點で御座いますが、左り乍ら斯くの如く衛生家並に醫家の主張して居るのは、何處も同じで啻に我が國の社會には限らん東西一轍と私は考へます、東西一轍と云ふの證據は佛蘭西の「ジアンチル」と云ふ人が「何程檢査をしても病は防ぎ切れぬものである、如何となれば公娼の他に多くの密娼

が有る、且つ又公娼に接する男子に病が有る、男子には無い樣に檢査をするにしても密娼に毒が有る故に、一統に是れをして無からしめんとすれば、一切の密賣淫を嚴重に探索して是れを檢査しなければならん、又左樣なる處に趣く男子にも檢査を仕なければならない」と云ふのは彼の熱心なる存娼論者「ジアンチル」氏恰も佛蘭西の長谷川君とも云ふべき人で有る（聽衆失笑）恰度是れが長谷川君の論鋒と少しも違つて居らん、先づ同じ樣と云つて宜しい。然るに長谷川君は「密娼の如きは公娼の一部の檢査を以て、世の中に無くして仕舞はふ」とあるので彼の噴火山の地球に火口を與へるが如く公娼檢査を以て、梅毒を豫防し得ると思ふのは、局り己れの職業上の狹き範圍内より觀察した丈けの咄しで社會一般から見渡したる論説で無い。斯の如き强固ならん反對論に對しては此の一擊を與へただけで充分差支へは無いと思ひます。（喝采）

是れから致しまして、凡て私は社會的から論じ政治的から論じまする積りで御座います（謹聽）。道德上に就き宗教上に就ての御咄しは友人に讓つて、私は充分世の中に感覺を與へたる彼の廢娼論は、實際の問題で無いと云ふ處の人々に向つて、社會的政治的から論じ樣と思ひます（謹聽々々）。只今申したのも殘らず實地の事では有るが、又是れから外國の歷史上より論じて見れば、矢張り長谷川君が伯林の有樣を言はれたが、「近頃外國に遊ぶ人は充分に其内情を見る事が出來ないのです、伯林には四万の公娼妓が有るがそれでも、尙ほ密娼の盛んに行はれて居る其數は大凡四万あり」と言はれた、然らば伯林の四万の公娼妓は密娼を壓する事が出來ないと云ふ者は此の四万の公娼が伯林に成立つと同時に密娼も殖えて居る事實で御座います。其の伯林に四万人の公娼が有つても尙ほ益々密娼が並び行はれて居る、其の行はれて居るにも拘らず此の密娼が伯林の人間に大危險を與へないと云ふのは、則ち人々自ら病を恐れると醫術の進歩とに依るので有ります、斯く看察せればドウシテモ議論の立たぬ譯となります。

今一ツ論じて見れば、此の前に演説せられたる友人巖本氏が申しましたる通り、倫敦あたりで行はれて居る者は矢張り公娼で有る。成程法律は認めて居らんが、公然と行はれて居ると申されましたが私共の主張する處は、ソー云ふ者は充分に警察の手を以て取り締る事を望むので有ります。世の人が是を以て密賣と云つても、其の賣公賣を許す樣な事は無き樣に充分に取締りをして貰ひ度いと望むのです。英吉利に三年以前迄成立つて居たる「コンタジオースヂシースアクト」此法律ハ恰度佛蘭西抔で遣つて居ります樣に、警察官が手を附けて臨時に檢査をすると云ふのでプリマスの如き港に行はれてなりましたが、有志者の盡力に依て之を廢し、今では英吉利には檢査法が成立つて居らん、是が爲めに英吉利の人民は、何う云ふ影響を歩けたか、則ち彼の佛蘭西の或る醫者が申したる樣なる害を受けて居るかと云ふに、却て英國には左樣な害を受ける者が少くして、體質の日々に衰へるのは佛蘭西人で有ると云ふ事は佛人自分が申して居ります。して見れば一部の公娼を許したが爲めに社界の、惡病を拒ぎ得ると云ふ事も、是れ又一の僥倖に過ぎずして的には成らん咄しで有ります。左りながら玆に一ツ注意すべき事が有る。是れは反對論に於て擧げて有る善き事實で有る、と云ふは檢査を致しません所の惡るい種類、公娼檢査を經ません其の密娼の病質を較べて見ると密娼の方が惡るい病質を受けて居る故に其の大害を避んとするのは公娼を一處に限つて時々檢査しなければならないと云ふ事を衛生家が調べて其の演説の中に述べて御座いますが、此の一部に於て公認すれば其小範圍には幾分の效はあるけれども、却て前途の患永久の害は益々增して往うと思ひます。何となれば凡そ人々の謹み難きは情慾とか申しますが、併しながら危險の有る事と危險の無い事と何れが人を陷れ易いかと云ふと、申す迄も無く危險で無い方が人を陷れ易いかと思ひます（ヒヤく）然らば政府が是れには危險が無いと云ふ保證を成し、法律の上よりして認めて居りましたなら、何うしても是れに陷り易いと言はなければ成りません。然る時は一方には社界の道德の勢力を弱めるのみならず斯の如き處に立入る所の人々に淫風を勵ますと云ふ事に於て、何うしても其の勢力を劇しからしむるの傾向が有ると云ふ事を論斷しなければならない。然らば公娼それ自身に就ては或は病が少なく爲るかも知れないが、啻に一部分の處にのみ目を着けて、檢査したる者と仕ない者とを較べて見れば、或は檢査する方が害が無いと云ふかも知れない。然し世の中一般感情及び未來の希望に就て、其の害の大なる事、又衛生上にも害の有る事は事實に徵しても間接に箇樣なら害毒を世の中に蔓延させるので有ると云ふ事を推論致さなければならないと思ひます。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

批評

益軒の教育法

撫象子

歴史家三宅米吉君の著なり、西國に於けるロックの地位の甚はだ重大なるに對し、日本のロックとも云ふべき貝原益軒が至つて冷遇せらるゝとを慨き、其の教育法を品序詳述したり、蓋し、普通の常情を哲學に嫁せしと、喧嘩騷動の世に哲學の味を普れく知らせたる事、諸學者の善考を綜合して普通の實用に利せし事、經驗を以て智識の元とし經驗を得せしむるとを教育の基礎としたる事、健全なる身躰に健全なる精神宿るとして教育上に衛生上の注意を重くしたる事、等は益軒のよくロックに似たる所るなり。然れどもロックが其哲學上の意見は政治上にも商業の上にも惣べての哲學の上にも万世不滅の大感化を流布せしに拘はらで、益軒が感化の極めて短かく且つ狹かりしものは抑そも故なきにあらず。吾人は益軒が篤行眞摯なるを愛すると共に其着眼の未だ必らずしも超高ならざりしとに憾みなくんばあらず、但だ夫れ當世の學者皆な浮空高尚の事に狂奔する如き獨り實用の學に心掛け、語を俗にして思ひを高大にし、能く聖道の徳を天下滿境に普れく行はれしめんとに盡力したるの一事は、其功偉大なりと云はずんばある可らず。故に此書の如きもの世に出でゝ彼が眞實の價値を世に表白するに至れるとは、目下頗ぶる喜こぶべきの事とす。引證確實、搜索遺す所るなし、叙事の躰に於て善く其法を得たるの良著となす也。

小說史稿

雲峯子

本書は關根正直氏の著に係る、先づ小說の起原を序して曰く「世諺巷談より出てゝ文運の進むに從ひ一部の趣向を搆へ一篇の冊子となり云々」と、今著者の說に從へば小說の種類は四種ありて(第一)巷談(第二)巷談を本として一部の趣向を搆へしもの(第三)史傳の事蹟を敷衍潤色せしもの(第四)作者の肚裏より出てゝ謂ゆる空中に樓閣を構へしものなりといふ左れば我國に昔より行はれし物語類は勿論謠曲、實錄、草双紙、淨瑠璃、院本、人情本等をも小說の內に加へたり西洋にては演劇脚本は小說の部に加へず寧ろ詩に屬すと云ふされば詩の一種をドゥラマトイック、ポエトツリイと云ふ我國にても近松時代の院本は國詩と同じく七五躰にて綴れる所多ければ一種の詩と云ふも可ならん然れど西洋の脚本の如く詩に似たる所ろ少ければ概して云ふ時ハ我國の脚本は(本書に云ふ如く)小說に屬すと云ふ方穩當ならんか小說起原の事に付ては餘り簡短に云はれしを以て何か物足らぬ心地す、其我國文運(小說に關する)の變遷を述るに於て公家世盛りの時代、室町將軍の時代、江戶將軍の時代と分ちしは最妙と云ふべし。

西洋にては文學の歷史に關する著述少なからず故に古來文學の進步變遷を見るに甚だ便なり然るに我國に於ては未だ文運隆盛ならざりしが爲か今日迄斯種の書甚だ少なし竹取物語は古しと云ふばかりにて何時頃の作なるや知り難く其碩の名は知ると雖も何年前の人にして如何なる人かといふ事を明らむる者ハ稀なり然るに本書小說史稿は附錄として作者の傳をも揭げ小說の變遷を分り易く序し名著傑作は其內の文章をも拔萃したれば一讀して我國古來の小說の一斑を知るを得べし余は斯種の書の出でたるを喜ぶ何となれば是啻に過去の變遷を示すに止らず合せて將來の文學に裨益する所多かるべければなり只惜むらくは簡短に過るの一事なり坪內君は其書簡中に「御組立といひ御文章といひ双つながら簡潔にしてしかも洩れたる所なく云々」と云はれたり實に簡潔なるにハ相違なし左れど余の希望する所は尙一層精密ならん事なり若組立趣向にして明瞭ならば如何程精密なるも錯雜混亂の弊はなかる可し豈短文なるを强ち簡潔と云はんや、如何に我國の文學が進步せざりしとて我國古代よりの小說を僅々百十三頁(而かも三號活字を以て)に序するは豈無理ならずや二十頁に多く書名を擧けしも之よ就て少しも述る所なし素より其內よは今日に傳はらぬも多かるべけれど亦傳はるもあまたあり何故に是等の大意を摘記し粹句を拔萃する事竹取、源氏の如くせざりしや要之余は坪內君と共に作者列傳の尙一層精しからんを望み且は小說史をも精密ならしめんとを希望して止まざるなり。

詩人ブラウニング(上)

ブラウニングの訃音一度轟き地上幾多の士人をして追惜の辭を發せしめたるを知らずテニソン嘗てバイロンの死を聞て嘆じて云へるあり曰く「余はバイロンの死を聞て全地のと止み世の終り來れり萬民の爲すべき萬事は果てぬと思へり余は之を聞きし時獨步しつゝありしが思はず腰を屈して沙地に(バイロンは死せり)と書して長嘆息を爲せしを記臆す云々」と、ブラウニングの死を聞てテニソンと同じき感情を起せしもの蓋し少なからざりしならん何となれば彼は尋常の詩人に非ずして高見卓識を備へ社會の先導者人民進步の案內者なればなり彼は生前に於て數多の人の尊敬を受けたり去れど其の崇拜者の中には阿諛に流れしものも多かりき然れば彼の爲めに痛惜する者皆必ずしも誠意誠情より痛惜するとは云ふべからず甲贊すれば乙和し人、是と云ふが故に我も應するが如き盲評者もあらん要するに此日は未だ彼に對する批評、紛雜未熟、見るべきあらず故に實着眞面目の人は容易に彼を稱贊せず、稱贊せざるはよし、されど彼の著述を見て感動さるゝも尙其感情を抑壓して稱贊の辭を發せぬ者あり以上二種の人共に語れり蓋し彼が無數の崇敬者を有し大詩人と呼はるゝもの誠に偶然に非るなり彼の詩が愛好せらるゝは彼が博識なりしが故に非ず强記なりしが爲めにあらず其主義の確乎たりしによるに非ず實に彼の精神の健全なりしが故なり彼の理想の完全なりしが故なり彼が卓見を有せしが故なり世の先導者たる力量を有せしが故なり彼を崇敬する者或は彼の云ふ所は解し難しと云ひ或は無用のとありと云ひ或は句格の搆造誤れりといひ其他趣向は變凰なり亦智識の用方宜からず拆といふなれど之等の欠點を擧ぐると同時に彼が大師たり卓拔の精神を有せしとを認むるなり彼が崇敬せらるゝの偶然に非ずといふは即ち此故なり。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

懸賞答文

女學生出校して后ち學びたりし學科の何れが最も實効を奏せしや、附たり出世后學窓を顧みて教科上に於ける感覺何如ん。

右第二回の懸賞文題に對し數多の答書を得たる中より兼ての社則に隨ひ品等を左の如くに相定め候。

上點　右　花圃女史　（神田猿樂町三丁目一番地樋口傳筆記）
　　　左　落香女史　（秋田縣北秋田郡牛田澤赤星千代）
中點　昱子　（在東京、宿所姓名不明）
下點　相生　（市ヶ谷中の町）
別格
　上　國尾あい　（大坂西江戸堀北通二丁目百四番地）
　下　東望女史　（大坂笠屋町三十八番地）

上點、右　花圃女史の答

花圃女史とは小生が恩人なり當時東京某學校に教授し居れり頃日女史を訪ふ女史云はく女學雜誌の懸賞文に感ずる所あり聊か已往の懺悔話を綴れりと草稿を示さる之を讀過するに後進女生の爲め有益の文字なしとせず乃ち强ひて求め去り淸書して以て貴社に投ずと云ふ而已。

併し女史の姓名は小生迄預り候又賞品は女史の斷はる所に御座候。

事實證明の爲め小生の住所姓名丈申上候然し紙上掲載の義は聊か御斷り申上候

東京神田猿樂町三丁目一番地　○○○○　○○○○

私の出校后學科中最も効力を奏せしものは

第一　○○○炊事なり

素より女學生出校后其人の境遇により各異なり候と考へ候へば先ヅ私の境遇より白狀仕り候抑私は明治十四年の頃より關西の某女學校に入舍し十八年に卒業仕り後數月を經て即ち十九歲の時に結婚仕り候當時夫は薄給にして舅姑も居せし折柄なるに僕婢を雇ふの餘財なき故私自から炊事料理致し居り候ひし此事に於て學科中大に實効を奏せしと感ぜしは學校寄宿舍内に於て數人づゝ輪番に炊事せし事に御座候（タトヒ當時僕婢を雇ふ力ありしも炊事料理に經驗なかりしならば大に不便を感ぜしならん）在校中は定規の僅々の金錢を以て勉めて滋養の食品を選び最も味善く料理するとは自然に名譽の如くなりしを以て其習慣は出校后に續き幸に何の不都合もなく消光仕り候實に思ば在校中最も嫌ひ候へし事が第一着に最も功能を奏せしは自ら笑止の至りに御座候。

第二　○○○○英學なり

在校中は英學などは未だ婦人に必要ならずと人も云へば私も左樣考へ（何分にも女學古代の時なれば）随て英學には不勉强なりしより親切なる外國孃をして憂慮せしむると度々にして

漸く學校制規丈を終へ候所結婚數月後夫は眼病を患へ醫師よりは一切讀書を禁ぜられ夫が業務上讀まざるべからざる英字新聞さへ讀む能はざりしが私幸に之を讀み之を聞かしむる事を得たり此時より始めて英學の必要を感じ亦實功を奏し候。

第三　日本作文なり。。。。。

當今夫は或る學校を預り居り候に就ては諸方よりの來信も少からず繁忙の際などは私不肖を顧みず執筆助力致し居り候在學中作文敎師が懇ろに敎授しくれし事、今に想起せば感謝に堪へず候。

其他凡ての學科は多少實効を奏し居り候へ共別して右の三學科は今も最も必要を感ずるものに御坐候。

以上は拙なる筆を以て聊か懺悔話仕り候のみ別に賞品なぞ宜しく候。

評に云く、一々實際にて特に有益の御經驗なり、實に炊事、作文、英學の三は今の上流國君には必要のものに候はんと存じ、答文上の右といたし候

第三回　懸賞問題

甲。理想紳士の資格

右資格を點數づけに爲すと、例せば剛英を何點、純潔を何點、何業を何點、信切を何點とする如くに點し、合して百點と爲すやうに計算する事。右答文は必らず女性より寄せらるべき事。

乙。理想佳人の資格

右資格を點數づけにする事、前例の如し。但し右答文は必らず男性より寄せらるべき事。

右關つても、其品性を二三字にて記し悉くす事、たとへば剛英と云ひ文學と云ふが如く極めて短簡にて差支へなし、左れど一々述釋理解を附するときは更に可也、但だ一篇の答文本誌二頁以上に超ゆ可らず。

右答文寄送、五月十七日(第三土曜日)〆切。

上點　婚姻論　二冊　　中點　婚姻論　一冊

下點　猫と鼠　一冊

恥かしくて實名を洩せぬ方もあれば紙上には雅號を載せ可申。然し本社丈けには御洩し下されれば賞品の送り屆けに困ります。

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

教育的小説

井上二郎

教育的の思想を以て小説を作るとを足らずとするものあり、倘ほ斯る思想を以て小説を作るときは人情を寫すとに疎んずと思ふものあり、大ひなる誤まりと云ふべし。彼のヂヲヂ、エリヲットを見よ、彼女一生の思望はコムトの哲學論を發揮するに在りき、故に人情の細微を寫し之によりて哲學を人化し閨秀小説家中古今第一の偉作者となりしにあらずや、而して英文中人情を寫すとの精細なる男に在つてはシエクスピヤを推し、女に在ては彼女を推すあり、教育的の思望を以て小説を作るとと人情を寫すとと何を以てか矛盾すべきぞ。

人の世に存するや各自天職あり、皆な人たるの義務を盡すべき也、人たるの義務を盡すには二つを要す、曰く自己の徳を修むると一也、人に益すると二也、故に商人も、小僧も、小説家も、軍人も、苟くも人たらんには皆な此の二義務を盡さずんばある可らず。此に於てか小説家の最良なるものは必らず教育的の思想なかる可らず、小説の最良なるものは必らず教育的の思想なかる可らず。

小説の善なる者を評して純潔と云ひ、高壯と云ひ、偉大と云ひ、美と云ふと、皆な教育的の性あるとを示す者也、たとひ姦淫の事を寫すにも、盜賊の事を寫すにも、人殺しの事を寫すにも、作者が人たるの義務を盡すが爲に之を寫すに於ては、其作皆な教育的ならずと云ふとなし。

彼の商賈の爲に作るもの、名利の爲に作るもの、慰さみの爲に作る者、玩弄物の爲に作るものは、作者自身すでに未だ完からず、安んぞ之より完全の小説を得ん。

社員が小説論は常に之也、今の人未だ之に贊せず、見よ一二年の后ち天下必らず之に同意すべし。

閨秀小説家答

第五　花圃女史　田邊龍子

御文拜見致し候女學ざつし毎々御送り被下今は申上候言の葉もつきたゞ〳〵御志のほど有がたく存し居候直に御返しさし上べく筈の所忙がしき事候て宅に居り不申安藤へさまり居おくれ候段御ゆるし在願候扨御申聞の趣いろ〳〵考へ候へども私くし事は議論がましき事大の不得手さ存せられ候にいくぢなき氣故さても評ださか論ださかしつかりしたる事はさてもかけ不申さ存し候其上一月廿六日より宮嶋様御嬢様(ざつしに出居候さ存し候)のやうな病氣になりかゝり一時は大そう苦しみ只今はよき方に候この譯は持病の腦充血の爲さ申事故もつぱら腦の方の療治心がけ毎日々々想ひ暮し居候右のわけ故何さぞ〳〵あしからずおほしくみ御腹立もいひがひなき者さ被思候はんがおゆるしのほど願候もつさも病中女學ざつしの廢娼論拜見致しふさ心にうかみ候事など歌にかきて見候はんさおもひつき候へどもはじめての事さは申出來るか出來ぬかも知りかれ候へこもかれて申上候通り心にうかび候さ直にいたしたき氣故心のうちてない〳〵少しこしらへかけ居候もし人にみせてもはづかしくないさ中嶋の師にみせて申候はゞ御ざつしの端拜借致度存し居候此頃又女學生の噂さはがしく心配に御座候さむさの折から奥様も御丈夫に候やよろしく御傳へのほど願候かしく

龍子

巖本よしはる様
御まへに

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

櫻井勉夫人の葬式

もみぢ記

徳島縣知事櫻井勉君の令閨久しき間だ重き肺患に艱れしが、過日不幸にして遂に永逝ありぬ。夫人は兼ねて心を決し居玉ひしにや、櫻井君任に趣かるゝ前に、二つと七つとの幼兒二人を托して徳島に伴隨せしめ、且つ懇切痛慨なる忠告を良人に遺言ありぬ、櫻井君亦た之を永別なりと知れども任所の公務極めて切迫すればとて遂に發行に決す、兒は憂ひを知らず只だ莞爾として母に別る、夫人が凛烈たる心も亦た斷腸の思ひありしなるべし、櫻井君慷歎して切りに酒を飲めども酒醉を發せず例の如く高談風を生ずれども聲自から低くし、遂に夫人に勵まされて、一日新橋停車場より出發す。

后ち十數日にして夫人の病いよ〳〵重し、夫人云く、最早全快も近きにあるべし徳島行の爲に新衣を調へ置くべしと、日々仕立屋を召び華美ある衣服を命じ、長女茂子(今年十七歳)の身に合せて裁縫せしめ、尚ほ簞笥を新調し樣々の器具を取集め石鹼入れに至る迄で買調へて悉とく之を簞笥に納れ、枕頭に置かせて初めて安んず。又云く、最早床上げをすべし、其祝の酒宴を開かんとて、魚肴菜物を用意せしめ、次の室には杯盤を陳列せしむ、万事すでに調ふ、此夜則はち永眠す。

瞑目前僅かに遺言して云く、葬式に金錢を費やす勿れ、諸知己にだも報告する勿れ、若し財あらばこれを學校に寄附せよと。

於此乎、柩前に花一束を立て、聞傳へたる知人十數名走り集りて圜列し、教師スピンチル氏說敎し、樂淸く歌短かく、式則ち畢る、親戚、遺男、合せて七八名之を葬送す、雨蕭々、伴者寥々、隣人皆な怪しみて何事たるを知らず。

后に之を思ふに、夫人早く死を決し、后事を悉とく精細に遺整せり、左れば櫻井氏の邸廣大婢僕族人十數人ありと云へども、長男繁二郎(十七才)長女茂子(十九才)二人家事を指揮して毫も不自由を感ぜず、万事肅然として直ちに辨ずと云ふ。

埋葬后翌日新聞紙上に廣告を見る、斯て櫻井君の議により、葬式料三百圓を三分し、夫人の郷里但馬竹田村小學校、同出石小學校、徳島高等女學校の三校に各百圓を寄附す。

余れ近來如此き凛烈の女丈夫あるを聞くや至つて稀なり、而して富貴櫻井君の如き地位に在るもの丶令閨にして如此き質素の送葬を受くるに至つては實に近世類ひ無きの偉事と云ふべし、異日更に夫人の詳傳を聞き得なば、記るして吾等の姉妹に告げ參らせんとを欲す。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

樂しまんが爲なり

山下石翁

貝原益軒翁は常に和らぎ樂しむとを尙とび、平生氣を平らかにして敢て怒らず、憂を避けて能く樂しむの方を知れりとぞ○曾て牡丹を愛し數株を庭前に植えたるに、一日塾生隣家の從者と園内に角力をとり、翁の愛する所ろの牡丹を折りければ、塾生、翁の怒に遇はんとを畏れ、隣家の主人に就て罪を謝しけるに、翁の曰く、余が牡丹を植えたるは樂しまんが爲なり怒らんが爲にあらずとて之を咎めざりしとぞ。

世の中は

春野はな

「世の中はとてもかくても同じこと、宮にわらやにはてしなければ」と謂はゞ言へ、春風春花彌生の空、都人士女が櫻かざして遊ぶなる上野隅田は朝々暮々人花の如く花人の如し、世上悠々たり寒に泣き饑に泣く人限りなく、身は是れ愁き事の山、世は是れ淚の淵、若し一點微妙なる神の光りの照らさずば茫々たる寰宇知る何物ぞ、風萍を吹く一瞬一貫、邯鄲夢は空しき五十年、月は掬水に落ちて影明滅し、花は溪流を追ふて香近遠す、人樂み人愁ふる浮世の有樣、見渡せば實に山青く山白ふして幾片の雲去來せり。

家の手わざ

天知翁

鷄の種類

洋鷄漸く日本偏土に晨を告げ亙るとは目下養鷄高熱の勢ひなり、併し着實の殖産論は口實の金看板にして、實は奇貨取るべしてふ、半錢殖産家多きぞ奇怪なれ、予は斯る現象を喜ばず、却て戶々一妻君に向ふて之れを說かんとこそ思ふ、元來養鷄の目的は殖産と風致と之れあり、殖産にも肉用、卵用、種禽用と各々、異なるものなれども、爰には經濟の心を以て風致を主とするものなり、固とより農學の一專科にして、相應に理屈なきにあらねども、今之れを言ふは用なし、則ち理屈の經驗上、幾多の失敗より成りし、日本の土地に日本人が飼養し得べきものゝ中より、最も容易の手段を述んとはす、換言すれば、日本の妻君が用の暇に成さるべき成丈け世話のなき飼方を考へんとするものぞ、養鷄は妻君の手業に宜しく、殊に婦人の手に最も適するなり、彼れが無邪氣な愛、彼れが樂しき「ホーム」は能く我れを快くせしむるなり、淸淨なる事業の此牧畜は能く小兒に無垢の慈悲心を起さしむるなり、庖厨の殘菜を利用して採卵するとは能く經濟の思想を誤たしめざるなり、思はず庭園に歩して身を動かし、繊密なる柔き手を以て

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

を取扱ふと婦人に於て最も宜し、娛樂、經濟、育兒、衛生、頗る無益のことにはあらじ、願くは無形ある此殖産奬勵の財嚢ともなる日來らんを待つ之れ予が妻君方に勸むる所以とす。

第一種類、は甚だ多し、鷄は元來亞細亞の産なりしが今日種なるものは皆歐米地方にあるなり、ポーランド、スパニッシユ、ミノルカ、ワイアンドット、ウーダン等其種甚だ多けれども養鷄者の最も戒むべきは多種を飼養せざるにあり、從來經驗せる所にては産卵可なりに飼養容易に且風致あるものを推さば、予は現今の所にては「プリモースロック」第一なりと言べし次は「レッグホール」、「スパニッシユ」なりと思ふ「ブラマ」種の如きは雄大風致鷄なれども、不經濟なり、日本の「シヤム」鷄、「トウマル」鷄の如きは躰大にして産卵少なからざれども食慾過大にして且爭鬪妬心深し、在來のものは種々混淆の雜種にして肉卵共に味ひ洋種の上にあれども食慾過大の割りに躰量輕く産卵少し、然るに「プリモースロック」鷄は性質温和にして健康に、産卵多くして能十五六匁の卵を産す、熱心なる孵化鷄にして注意深き母鷄なり且飼養に手數少なく發生亦可なるものなり此他にては日本にての改良種こそ望みを屬する所なり。

小説

野邊遊び（其四）

ゆかり

岸本松子とは年の頃がようやく十五歳計りです心さまが何となく曲て居り、人が何か小聲で話してもすると直ぐ嫌な方へ氣をまわしそしてまた誰か相手を目付けて自分も同じやうにその人のうわさをしたり、友達が自分よりすこしよい着物でも着て居ると襟付が惡いのハショリが氣にくわぬ、縞柄が面白うなくつて色合が感心しないなど、難癖を付けたがり、鼻端が強く意地が惡く其上に至ての御轉婆です、一度此娘の憎しみを受ると根もない事を云ひふらされその上遇ふ毎に惡らしひ目附で白眼まれる故大抵の朋友はよらずさわらず所謂敬して遠ざけると云ふ秘計をもつてよう〳〵に交際と云ふ難物です。それにひきかへとし子は温順でまた子供ながら乾とした所があります、岸本松子とは學校仲間ですが今日迄さのみ一處に遊だことも見ないようです、最も姉と妹と云ふ位の年で松子の方は極く長て居りとし子はまた案外に子供らしひ故遊でも面白くなく隨て松子もしらず〳〵意としなかつたのでしよー、がいま松子がとし子に對て云た言葉の何となく角立て居て、目の光かりに胸の炎らが燃ゆる度合を顯はして

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

居ます、ソシテ音調が少しくいつもより激しひようデス。
おとしさん、花がめつかつたノ？、あなたのような人がよく目付けられた事
松子は平氣デス
私が目付たのではありません
ソー、だれが見付たのです？
此時傍らに立てる少年を見て
長岡さんが目付たのですか？長岡さんの若様が見付ておとしさんに上げタノデショー、そうですチ！おとしさん、あなたのような人が自分で目付かるものか、人に目付て貰つて好い氣になつてる人があるノダモノ、お自分の御ぢさんの御家だから我儘が出來て結構ダこと、洋服でも着て大勢に馬鹿にされるがイーワ、白の洋服あんぞ着たつて何になるものかつまらない、
云ふ事が皆お惡さげです、長岡は無禮な奴と思ても自分は招ばれた客の一人ですから年だけにだまつて赤い顔をして堪へて居ります、とし子は此度の言を聞ては子供心にも口惜しひと思ひ込で知らず〳〵眼に涙をたゝえました、松子は
チヤこの人はよわい事モウあくの涙が出かけて來てよ天氣の好いのに雨がふるのチー、泣ておどかしても何ともないワ泣虫ダチー
もうとし子もたまりません摑みかゝらうとするはづみに足をふみちがへて池の方へ下りようとする木杭の段につまづいてドッサリ前に倒れました松子は助け上ようとする樣子もなく好い氣味ダト云はぬ計りの顔をして五六人の友達と行きかける、長岡は走りよつてとし子を抱き起して見ますと聲も立て得ず泣き入て居ます
おとしさん何處か痛くつて？エ、エ、エ、おとしさん五郎さん叔父さんの處へいらしつて云ひ付て下さいよ早く、
行きかけた松子は何思ひけん道をかへて一人門の方へと走り去りましたつゞいて五郎も走せいで、多くの子供等も驚いて散りさりました、今迄泣き入つたとし子は何思ひけん急に立ちあがり走り出でんとする後より
お孃樣どう遊ばしたノデス、おまち遊ばせ
とかけ來る下女のお芳、シッカリと抱き止め
どう遊ばシタノデス、ふだんにあい喧嘩あどをなすつテハいけません
芳の顔を見たとし子はこの時始めてワット聲を上げて泣出し

ました。イーヨ、私はおぢさんに云つてもう歸るノダカラ、お松さんが……岸本の……私を……イロ〳〵なとを……。

おなき遊ばしてもいけません、デスカラさつき芳が申上た處にお待ち遊ばしていらつしやればこんなとはなかつタノデス……イケマセンそんな事をなさると御召がよごれますサーおだまりなさらないと……エ……何に……エ……泣て御つしやつてもわかりません、そして……泥だらけ……オヤ何處かお痛め遊ばしタノ……一寸サー御顔を拜見……血が出て居りますから

下婢の芳は血を見てとし子の面部を改めると、左の眉毛の上に傷が出來て居ます、もとより僅かな傷ですがお芳の驚きは一方でありません

トンダ事が……マーどうしましよう私が申譯のない事が、

最前より氣の毒と驚きに半ば氣を奪われて居た少年は

實にお氣の毒でした、おとしさん私が惡るかつたタノデス。御免なさい……松子の奴が失敬な奴だ人を……ツ失敬な、お芳私が惡るいノダカラ御前は惡くはないヤチ、そんなに云はれると氣の毒で僕が……こまるナー、

時に五郎の注進に驚きかけ來る仁田淸

ドーシタ、おとし、エ、ドーシタ喧嘩をしたと云ふではないか、エ怪我をしたドーシテ怪我をした、ドレ何處に、これは大層深いようだ、ホイ何に傷ではない口だと、どうりで大きな赤い穴ダト思た、ナニ轉だ岸本の松子と喧嘩をしたと云ふがそうか、エ、呼ばねばよかつたが義理で仕方がないと、とし子、オイ歩けるか、かわいそうに、長岡さんコレ健さんその籠をもつて來て遣て下さい、芳や早く母屋の方へ行つて、氣をしづめて寢かさんといけん、何か間違で兩方が……サーおぢさんにしつかりつらまつて御いで。よしか、ソレないてはいかんナー。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

おぢさんもういたみはしませんからイーノ、寢て居るのは嫌ですから時々起きては庭を歩いて見るんですが、つまらないわ此頃は、弟か何かあるとイーケレドモ、

さかしげに床の上に起きなほりし小娘枕邊に多くのクリスマス、カードを置きならべ、くりかへし〳〵樂しげに打見やり、内なる一枚の札を指さし

おぢさんこの畫は野邊のすみれがかいてあります。

寄書

米國費府の慈善家「モリス」氏

在神　井上誠之介　報

左は曾て米國に於て「モリス」氏夫婦の知遇を受け即今神戸に滯在する某氏より或る東京貴顯の方へ呈したる書翰の拔萃なる由、以て「モリス」氏夫婦爲人の梗概を想見すべし、

「モリス」氏費府に於て舊家の聞ゑあり、本年七十歳餘然れども眉目淸秀曾て衰老の色なく毎日都府に往き(「モリス」氏の居宅は費府を距る三里の郊外にあり)孜々として業務に鞅掌す、家道豐滿資產巨萬を累ね「ペンシルヴェニア」州中屈指の富豪家なり然れども曾て一毫の侍色なく恂に只だ善を爲すを以て樂さなす年々學校に病院に貧兒院に布教に義捐する所極めて多しと云ふ、其爲人や溫良靜肅一見人をして恭敬の心を起さしむ前紐育領事某氏曾て小生に語て曰く余吾國に於て人を見ると多し然れども淸高未だ「モリス」氏の如き者を見ずと蓋し過讃に非ざるなり。

「モリス」氏夫人は本年五十歳餘賢夫人の聞ゑあり熱心なる宗教家なり日常神に事ふるを以て己れが任と爲す其稟性多病なるに係らず或は病院を訪ひ或は獄屋に至り或は貧兒院に往き其他百般慈善の事に心を用ひ身を役するを以て無上の幸福となす亦曾て日本人の友を以て自ら期す日本留學生等其補助薰陶に與かる者少からず六七年前より毎月一次費府近傍にある所の日本人を校宅に招集し晩餐を饗し聖書を輪讀するを以て例となす期日に至れば假令へ身は數百里外にあるも必ず家に歸り自ら勞を取る曰く吾此快樂を廢すると能はずと故に費府に至るの日本人「モリス」氏を知らざるとなく「モリス」氏を尊ばざるとなく「モリス」氏を慕はざるとなし。

「モリス」氏はフレンド派に屬す鄕香を去り式禮を省き只誠意正心神を敬し人を愛するを以て主旨とす蓋し新教中至純なるものなり。

一女あり牧師「ウード」氏に嫁す一男一女を擧ぐ。

又當時費府の醫學校に在る某氏より其私宅に通信したる中にも

「モリス」氏夫婦は多年日本人を愛遇し其懇篤なる筆紙のよく盡す所に非ず故に費府に於て仝氏夫婦の厚遇を受けし者八十餘名の多きに達せりと聞く小生も亦非常に恩遇を忝ふし必ず毎月一回は其招きを被れり殊に昨夏の如きは恰ど一週日も仝氏の宅に滯在殊遇を受けたり仝氏夫婦三月十一日に桑港解纜我日本に漫遊せらる、仝夫人は「フレンド」派婦人傳道會々長にして其慢遊の目的も日本傳道の模樣を視察し且つ日本上流の婦人に面會して傳道の一助を與んとの由云々とあれば仝氏夫婦は我日本の愛友にして我數多の靑年は遠く海山を隔てたる他鄕に在て如何に其殊遇を被りしやを想見するに足るべし神戸地方に於ても多年ペンシルヴェニア鐵道會社(モリス氏は其支配人なりと聞く)に在て仝氏の殊遇を被りし大島氏其他仝夫婦の知己澤井氏當時費府在學川本氏の兩親など百方盡力して仝氏待受けの最中又靑年會婦人會の諸兄姉中にも一は日本靑年の受けし厚遇を謝し一は仝夫婦來遊の目的を助けん爲め盡力せんとの協議もある由に聞けり。

因に云ふ「モリス」氏夫婦は旣に本邦に來り京濱間傳道の摸樣視察の上は東海道を經て京坂神の間に遊び次で馬關邊にも赴かるゝ豫定の由。

春

淸艷女史

世の中に春ほど樂しく、又春ほど悲しき時は有りますまい。

御覽なさい、肌をもつんざく樣な雪——其れを小兒が我踏む氷魂大かれとて、競爭遊をした其雪——の時候も早や過ぎて、其色なば馨る梅花に讓ッてしまッて、只高山の峯に少し許り、其の跡を留めて居る許り、其れとても早命少なき有樣、されば一むらの霞にも、嬉しき色を込めしかと思へば、何んとなく憎からず、初音を急く鶯も、何所かの梅が香を伴ひしかと思へば、是すら匂ふ許り、庭前にはひとり居る若草の、愛と美とに耽けて、微笑する樣の愛らしさ、徐々と開き初むる三月櫻、含める花の露濃やかに、玉を貫れた樣なるが靜かに吹き來る、凉風にそだてられ、彼處ら此處らに動くのも、若し是れが夏で有ッたなら螢ではないかと疑はるゝ許り、いざよふ月の雲を拂ふて出る其のさやけさ、習々と吹き來る微風はなもむろに人の心を凉くし、朗々と晴れ渡る麗かは、そゞろに人の心を淸くす、見れば紅白の朝霧と東と空とか、まがひもなく此の世界を色染めて居る有樣、アヽ何か何と言ッても春ほど樂しき時節は有りますまい。

けれど又御覽なさい、思ひ有る身の常なき心には、他の人々の樂しき樣を見るに付け、嬉しき形りを見るに付け、いとも悲しみを增し憂いを起す元と成ります、ソレー、意て沺ゆれば花も嵐です、月も暗です、心に憂いを抱いては、花をいても慰さめられません、まして花を散す無情の風雨を見ては。心に悲を含みては、月に對しても何の樂しみに成りませう、まして明月を隱す浮雲を見ては。誰れか是を浮世でないと言ひましやう、花間の鶯と林間の雀とが、麗かな空景色に醉ふて、兩方から太平樂を奏して餘念のないのも、愁い有る身から聞けば、何とかの聲と聞へましやう、左れば物思ふ人の身に取りては、人の袖に露をも置かぬ淸らかなる時にても、愁の狹霧立籠めて、開かぬ袖の片時雨、干しもあへぬ心の裡、思へば山を取攻む霞も、物思ふ人には却て愁いを增させる種です、若葉の梢の彼處此處へ茂り行く有樣こそ物思ふ人の心です。

アヽ何か何と言ッても、春ほど物憂き時節は有りますまい。

之れは私しは斷言致します、凡て物にやれ樂しいとかやれ悲しいとか言ふのは、其人の時と場合に依るもので、决して時候に依るものでないと思ひます。

坐右日記の一節

在駒場 栗田閑 稿

玉川上水の長き堤に沿ふて行く道の邊りは田もあり畑もあり林もあり檜櫟ハまだ冬枯れのそのまゝ枝に葉はなけれども霞を帶びて今や萌え出るかと思ふばかり空に啼く雲雀は聲ハすれども慾ハ見えず青き麥ハ秀でゝ風に波立ち黄金なす菜の花ハ今を盛りに咲き亂れ蝴蝶の戯るゝさま得も言はれず

菜の花に遊ぶ蝴蝶の羽たゝきて二ひら三ひら散り初めにけり

見渡せば四方の山々霞棚引きていさも靜かに富士の高根は雪を戴きて妙えに裝ふ景色

白妙の富士の高嶺もけふハ又霞を帶に裝ひにけり

小金井に着きし頃ハ正に十二時或る一茶店に憩ひ今を盛りと咲き匂ふ櫻の下にて腰の辨當折しもそよ〳〵と吹く風に水の上へに咲く花ハちらほら雪の如く散りぬ友の曰く花ハ意ありて落ち水ハ情なくして流ると

小金井の水を鏡に咲く花もこゝろありげに散りぞ亂るゝ

茶店を出で杖に扶けられ流に沿ふて徐々と上りつゝ眺むれば今を盛りに咲くもあり過ぎたるもあり散りたるもあり老木若木一重八重相交えて植へしハ早く見に來る人にも亦晩くりに來る人にも宜しからん漸く小金井橋に至り橋の上より上流を望めバ落花水に浮びて花の筏物あらば構みて花おや採らん香をや掬はんと思ふばかり

小金井の水に袂を構みて流るゝ花の香をやとゞめん

小金井橋より又行くこと幾町兩岸の花ハ相も變らぬ白雲の如く恰も花の隧道をくゞるこゝち長き春の日も短く思はれ草鞋に足を食はるゝも忘れ日の西に傾くに及んで杖を頼みて歸路に就きぬ

風前雨裡春空老

かほる

誰か春を長閑と道ふや、風雨昨夕又今朝、春光九十其の晴曦を看る其れ幾許日なりし、あな意地惡るの雨師や、人ぢらしの風伯や、

櫻がり雨は降り來ぬ同じくは濡るとも花の陰にかくれん

も詮方なさの似而非風流、春香狼藉、花紛々、實にや浮世の春の夕暮。

春夜瀧

村木經篠

山櫻花のしつくもかきませてにほひこほるゝ瀧の白玉

青井社垂櫻

世にしるき青井の宮の絲櫻くる人しげき花の此頃

夕雲雀

夕ひばりかけハ定かにわかれさもかすみを分けて聲ぞおちくる

開書

再び有樂堂主人にまいらす

常盤木 千代子

たしなみても尚ほたしなむべき女性の身にしありながら嗚呼がましくも主人の高著に對して望の節々をまわらぬ筆もてかきつられたる不埒の所業をも責め玉はずいと懇切に御解答なし下され感謝の言の葉もなき次第に侍る。仰ぎ願くは小妹のやむにやまれぬ感想と小妹の癡性の率直なるとを憐みて意のまゝにまわりかれたる筆の跡に若しや不遜の語氣などありやもしつらんに付あわれ御容赦あらんことを。今復た奉書致すもいかゞにやとためらいしも折角御懇答なし下されしにも係らず迷謬の節々を其儘捨て置くは主人の御意にも反き又小妹の初志にもあらざれば小妹のまだ得心せぬ節か尋れ小妹の意の不分明なりし角をも明さんとてかくなん。第一。小妹の意は主人が笑の中に大切の問題を逃べんとせしは宜き思付なれども問々聞き苦き文字及句節あるは何かの誤より來れりしならんなどと淺くも考へ隴を獲て蜀を望むとやらの古き諺に從ひて嗚呼がましくも御改良の程御勸め侍りしまでにて夢にも主人の心術までにも立入りてとやかく批評するの心にてはあらざりき。又小妹は。忌に教師を批評するなどとの意にてはさら〳〵あらざりき。若し欠禮の角もありと思召し玉はゞ淺慮の女子しかも世間知らずの小妹がまわらぬ筆にまかせてしるせし過なりとして御海容あらんことを祈り侍る。第二。米國の社會にては別嬪を見染ると云ふも誰れ一人猥褻とは思はぬとは主人の御説明にて分明なりしかも小妹の如きは米國に遊びしことなきは云ふも愚米國の事情も聞きしことさへなく世間知らずの寒村僻地にて純粹の日本風に養育せられたる日本人にて主人の云はれし日本人は見染ると云へば屹度惡念があると思ふ一人なれば且つ主人も亞米利加人でも日本人でも人情は同一ですと云はれしを讀みしかば主人が言葉を誤用せられしならんと小妹が疑ひしも亦無理ならぬことにこそ思はるれ(小妹は言葉のみならず事實にも餘りよからぬ節々ありと信じ侍る)。又愛てふ言葉の御說明もありしが小妹などは春秋も少く經驗も淺きものから愛てふ文字は日本の普通語にてあらざりしは勿論善き言葉にてありしとのみぞ思ひ侍る。何は兎もあれ主人の高著は米國邊の男女の有樣などを知らぬ日本人の爲めにとてものせられしならんには其目的に相應する樣あらためられてはいかゞにや。又米國に行るゝ清潔なる男女交際が日本にも行るゝ樣に致したしとは極めてよき御志望なれども小妹は清潔なる男女交際は究勝米國の男女交際法に十が十まで倣ずとも尚ほ別に交際するの良法もあらんかと信じ侍ると申すも日本人には日本人の風俗習慣などあればなりけり。加之小妹はもしや主人の精神と高著の神髓とを味はず徒に外形に流れ主人の高著を口實となしもて道に迷ふの輕薄なる男女の出で來らん

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

も許り難しとの杞憂を懷きてければ何故に一言一句の批評もなきやと疑がひ侍りぬ。若し失禮などあらは幾重にも御許容あらんことを祈り侍るは勿論なれども若し亦万一にも小妹の言葉の中にさる處もありと見そなはし玉はゝ實に幸福の次第なり。

交詢

●歌獨修の事　此頃ろ所々より歌の獨習方並に池袋大人の點正を乞ふとに付き問合せあり、之は西京上京烏丸通一條上る池袋清風大人へ宛て月二十五錢宛の月謝を拂ひて御稽古なされば宜しひです、此事に付き問合せの諸子へは以上一つの答へで辨じ置ます。

●一女　日本の地理及び古今の歷史を一と通り御覽になるには吾社の通信女學講義錄の中に其科があり升。

●神田S、T生　"Travelling is a fool's paradise" の出所は承知いたされども ミルトンの失樂園の詩に殆んど同樣の句があり升。主觀はサブゼクチーブ。客觀はオブゼクチーブ。

●白金郷名和君　惠告の事有がたく存じます、愚意も亦全く同樣にて知已の言をうれしく存じます、既に先方の人に面會し共に運動の方法を打合せ居り升。

●松江の賤の女　毛糸編物教授本は本社にても取次ます又淺草三好町大川やにても賣ます。

●米澤の羽陽散史　府下にて主なる女學雜誌類は、いらつめ(月二回)、貴女之友(月一回)、女新聞(五十の日)、婦人矯風會雜誌、婦人教育會雜誌(共に月一回)、婦人衞生會雜誌(隔月)、成立學舍女子部講義錄(月一回)、文明の母(月二回)、婦人教會雜誌(月一回)、國之基(廢刊)等です。

問

一。日本地理書にて山田行元氏の新撰中地理書と大槻修二氏の改正日本地誌要略とは何れが宜しく候や(和歌山、白川幸二)。

二。衞生上光線を東南より受るは善し西北より受るは惡し工業上には北より受る光線を善しとは何の理か(山家娘)。

右答文を要む、正答のお方よは雜誌一部呈上。

時事

櫻散る

日本人は櫻に似たり、彼れ霜雪を冒し春光第一に開花すると、も得せず、梅先づ東天に薰したるの后ち扨てそろ〳〵と春風に誘わるゝあり、而して其の開くや万朶一白、光華千丈の艶あり、只だ其榮華は一日にして、乍まち落花微塵とある、花或は落ちて水に流れ、或は落ちて廁に入り、或は落ちて馬蹄に踏まる、殘枝悄然、一の食ふべき果實を遺さず。古人歌ふらく、敷島の大丈夫は心山櫻に似たりと、然れども吾人は其の之に似ざらんとを祈るもの也。

三黨三色

落葩片々の邊り、改進黨員は其大會を催ふしたり、今月末青葉茂る比ほいには愛國公黨の結黨式あり、來月初め櫻坊の一つ二つ大きくなる比ろには大同團結の大會あるべし、彼の秋菊の開くは尚ほ間遠しと云へども、今日都門にさま〴〵の花を見ると亦面白からぬにはあらず、ホックスレー曰く花卉の色に色々あるは皆な他の愛を引んが爲め也と、吾人は其色を見て其引付け方の何如んを辨ずるもの也。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

外山正一君

外山正一君は廢妾論にいよ〳〵熱心なり、吾人轉たゝ感服の外なく、益々同情を呈せずんばある可らず。聞ならく、君は、加藤弘之、西村茂樹、中村正直、富田鐵之助、等諸氏の賛成を得て、いよ〳〵之が主唱に熱勉せらると、夫れ吾黨の今は彼此望蜀の議論に局促す可きにあらず、須からく之に賛けて大ひに實行の手段を運らすべきもの也。

宣教師方の女學校

目下の女子敎育法に關する吾人が意見は、載せて前々號の本誌社說にあり、明治女學校の幹事は更に之を印刷し廣く國內に配布したりと云へり。之に付き、宣敎師諸君は思の外に同情を呈し格外に吾人が申せし所ろの愚考に賛成せられたるが如し、一は時勢の然らしむる所ろと云へども亦た諸氏の公平なるに由る。諸氏もし更に其敎育法を日本的にせば、我邦が諸氏の爲に益を蒙むるの度更に一層に多かるべし。

其改良一策

而して吾人は常に言へり、日本人が宣敎師方の學校を自由にせんと思ふは望外の事を望む也、此種の學校は外國傳道會社の補助によりて成立し則はち外國人の金を以て維持するものなるが故に、日本人が徒手之に關係して思ふ儘に取扱はんとするは極迂の望み也、故に日本人にして若し其信ずる如き敎育を施さんとせば別に其獨力にて學校を設立すべしと、是れ吾人平素安心の處ろ也、故に宣敎師の學校に居る日本人が毎度小言を言ふを聞きては左程に感服するものにあらず。

然れども宣敎師方が日本に來りて敎育するは、日本人を敎育するものにして敢て西洋の子を造る爲にあらじ、故に日本國の事情を參酌し能く當世の實用に應ずるやうにするとは敎育學上眞に必要の事あるべし、故に吾人は卿等に日本人に權を任せよと云はず、只だ敎育學上深く之に談らふとあれよと云ふ、明治二十年八月發行女學雜誌第七十號に云く、

……但し外國の敎師諸君は其中心の正直なるに應じて一朝人を信ずれば殆んど同胎の如く之を愛顧し其末此の人に對しては何如なる批評をも容さゝるの弊往々にして之れ有り善者の一失と云ふべきもの也、故に吾人は日本信徒中より若干の委員を擧げ之をして一定の期限中在職すべき幹事を撰擧せしめ以て厚く之を信用し期に至りて更に委員の考察を要するとし而して前后ともに之が取捨の權を外國諸敎師の中に有せらるゝを以て最良の策ならんと信ず。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

と、吾人は今に至るも尙繰返して此方案を勸告するもの也。

僧侶の議決

各宗僧侶は去十二日府下西の久保光明寺に集會し、

第一　廣く義捐金を募り簡易科小學校を設立し貧民教育を普及すべき事
第二　兵營並びに獄監に教悔を普及する事
第十　富者の貧者に對する德義奬勵法の事
第十一　殖產興業を奬勵すべき方法の事
第十二　土葬を止め火葬を普及すべき事
第十三　宗教上不德義者を擯斥すべき方法は僧侶の德義を養成するの主旨とする事

等其外七ヶ條を議定せしよし、何れも議決のまゝに實行せらるゝに至らば喜こぶべきことと云ふべし、但し火葬を普及するの一事に至つては吾人全く之に贊成する能わず。

脅迫浪藉

傍聽者が議員を脅迫するとの恐ろしければとて、法律第二十八號の議會議員保護法を發布ありたるに、この用心すら尙ほ及ばぬ迄の騷動を引起したり。見よ、新潟縣會には、議員が脅迫して議長に辭職せしめたり、縣知事は警官をして議場に亂入せしめたり、實況如此し、代議政躰の實それ何の處ろにあるや。

夫の凌辱

將に發布せられんとする民法人事篇中、離婚請求の源因を列擧したる中に、

姦通、但し夫は婦に對して凌辱を加へたる場合に限る

の句あるよし、之れ實に譯の分らざることと云ふべし。凡そ夫が婦に對する凌辱の中にて、姦通ほど凌辱の大ひなるものなし。然るに夫は姦通の故によりて妻を離緣し得れども、妻は凌辱を加へられたるの故あらでは離婚を請求しがたしと云ふ、此の懸隔を造り置くすら既に奇怪なるに、凌辱と姦通とを別物の如くに思ふに至りては、迂も亦た甚しと云ふべし、但し成文は何れにても宜し、吾人は實際の習慣甘まく熟し不成文の上に於て凌辱の意義と姦通の意義との全然同化するに至らんことを待つ也。

支那の井上馨君

支那の井上伯、曾紀澤侯は遽然長逝したり、其の穎悟敏達にして精しく內外の形勢に通じ、能く危を轉じて福となすの剛英に至りては、淸朝千百の豚尾官中一人も及ぶものあるなし、四百餘州第一流の人傑たり。惜しひ哉天、之に年を假さず、五十一歲にして早世す、嗚呼之れ支那帝國のみの不幸にあらず、實に我國の不幸なり、啻に日淸兩國のみの不幸にあらず實に東洋全洲の不幸なり。

ビスマーク公

比公すでに辭職せり、然れども公が憂國の情安んぞ之をして長く草花家犬の愛に耽らしむるとあらん、況んや公がチヤヂらしく親切なる、獨逸國民か孫の如く之になづくの情は蓋し久しからずして復た公を隱退の裏に勃躍せしむることあらん、凡ろ少壯者の人氣を得るは暫らくの間だなり、特に獨逸國民の如きに取りては長く新帝新相の過激に甘んじ居るものにあらざる也。

廢娼記事

●●●●公娼可滅　一冊正に發兌す、島田三郎氏の「廢娼論の精神及び着手の方法」、並に嚴本の「公娼廢后何如」「姦婬論」を戴せ、紙數凡そ七十頁あり、一千部は無代にて配布し、更に增刷したる一千部は四錢の實價にて賣捌かるゝ由、而して賣捌は本社にて致し、配布は婦人矯風會風俗部にて取扱はる。

●●●●東京廢娼會　の發起會は彌よ來る廿二日に開かるゝ由、既に發起人となり若くは發起會に列席するとを承諾せられたるは加藤弘之、田口卯吉、三宅雄二郎、津田仙、イビー、スピンチル、島田三郎、森林太郎、中濱東一郎、高田耕安、和田垣謙三、渡邊又兵衛、小島官吾、湯淺二郎、伴直之助、江口襄、元良勇二郎、大儀見元一郎、木村熊二、植村正久、田村直臣、田井正一、井深梶之助、横井時雄、大西祝、渡瀨寅二郎、德富猪一郎、竹越與三郎、平岩愃保、內山定吾、黑岩周六、等其外從來すでに明白に廢娼運動に加擔ありし人々は言ふ迄もなく、合して凡そ六七十名の諸氏來會合議せらるゝ由、而して外山正一君は會と云ふものゝ運動を好まず單獨にて同主義の爲に盡力せらる由。

●●●●●臺所町青年會　の會員は來月一日上野に於て廢娼演說會を催うす由、出席辨士は、イビー、黑岩周六、田井正一、及び嚴本等に定りし趣也。

●●●●廢娼討論　去十五日午后六時より四谷門外大泉寺に於て女子談話會員の廢娼討論會あり。

●●●●廢洋妾論　能辨學會の今月大會に於て佐藤顯理氏は同題に付熱心に演說したり。

●●外山正一氏は蓄妾は尙公許なりとの論文を諸新聞紙に投寄したり。

●●茨城　同縣下眞壁郡下舘村にて去七日夜廢娼討論會あり。

○女報

高等師範學校教諭正七位　中川謙二郎
任女子高等師範學校教諭兼女子高等師範學校幹事叙奏任官四等

高等師範學校教諭正七位　岩川友太郎
任女子高等師範學校教諭叙奏任官四等

任女子高等師範學校教諭叙奏任官四等　瓜生繁子

高等師範學校教諭　岡五郎
任女子高等師範學校教諭叙奏任官五等

任女子高等師範學校教諭叙奏任官五等　加藤錦子

任女子高等師範學校教諭叙奏任官六等　武村千佐子

任女子高等師範學校教諭叙奏任官六等　佐方鎭子

○美術學校女子部　を置くべしとの事は兼てより本誌上に主張せしとなるが、此頃に至り當路者にも其議起り多分は追々新設せらるべしと云へり●

○產婆受驗者　東京府廳に出願せし分は今回百十七名あり試驗は來る二十七八日にて結了すべし。

○國の基　は今月より廢刊したり蓋し主筆矢田部良吉野勢榮の二氏引つゞきて女學社會を見棄しに由るならん。

○女速記　明治女學校は卒先して速記科を教授し此度び亦た之を專修課の一となしたるが、此事大に斯の道の社會の注意を引き、去る五日林茂淳氏は之を參觀して一塲の演說を爲したり。

○ケンシツト孃　は女子と速記と云へるとを題の万國速記大會に於て演說あり其譯文速記彙報　近刊の分第十七號に載れり。

○大和の孝女　大和添下郡々山町大字南郡山士族小柳彌吉なるもの、長女にキヨなるものあり天性至孝、父兩三年前に變死ありしゝより後は母タカ(五十二年)に事へて孝養尤も勸む竟に近鄕人民の知ろ所となり呼んで孝行娘と稱すされば去る九日同地の村役塲よりキヨの孝道を具狀し賞與あらんとを其筋に申出たりといふ(四月十三日中外電報)

○週報

○宮庭　六日四條畷神社へ勅使として西四辻侍從を差遣されたり●八日天皇々后兩陛下後月輪東山陵御參拜あらせらる●九日天皇陛下滋賀縣廳へ行幸あらせらる

○政治　十二日立憲改進黨の諸氏ハ江東中村樓に大會を開きたり●十三日木挽町厚生舘に改進黨有志者の政談演說會あり

○銀行　十一日京濱同盟銀行員諸氏は坂本町銀行集會所に臨時總會を開けり

○教育　舊聖堂跡なる教育博物舘去る十日開舘せり

○彙報　八日琵琶湖疎水工事竣工式執行せらる

東洋英和女學校廣告欄

本校の學期は豫科三箇年本科四箇年にして別に二箇年に渉る高等科の設あり入學生は寄宿生百三十五名通學生百名を限とす毎科受持の敎員孰れも熟達善良なり然して本校の敎授は實に完全なりとの世評を獲んとは本校の希圖する所なり規則書等御入用の御方は校長宛に御照會を乞ふ

麻布區鳥居坂十四番地

東洋英和女學校

廣告

●**京濱基督信徒聯合婦人大祈禱會**

來る五月三日(土曜日)横濱海岸百六十七番會堂に於て開會す

午前十時より
午後二時より

主意(エペソ五〇一、默廿四〇十七)

少年園

少年園は春花の美秋果の實を兼ねたる好雜誌なり。其大家學士の寄稿に富める、其文辭の平易流暢なる、其挿畫の精巧優美なる、他に又比類を見ざる所なり。其發行の部數每號**貳萬**を越ゆ。獨り少年諸君のみならず、大人と雖も亦た常に樂んで卷を披く所なり。**娯樂**の中に**裨益**を與ふると是れ本誌**獨得の長所**たり。今や卷を更むること三回、號を重ぬること三十六、將に第四卷**第三十七號**に入らんとす。是れ蓋し新に購讀を申込むの**最好期**なり。後來本誌が如何なる美花を着け、如何なる良果を結ぶかは、請ふ逐次閲讀して之を知れ。

每月三日、十八日發兌。定價一冊金五錢、十二冊(半年)前金五十五錢。廿四冊(一年)前金一圓、郵稅一冊金五厘。見本は郵券五錢五厘を要す。

こども

每月廿五日發兌。定價一冊(四十八頁)金三錢、十冊前金廿七錢、廿冊前金五十錢。郵稅一冊金五厘。見本は郵券四錢を要す。

嚮に東京敎育社にて發行し、大に子供諸君の愛顧を受けたる「こども」雜誌は、先般本園の養子となり、去る三月下旬其第二卷第一號を出版せり。記事最も平易にして**小學生徒**諸君の學力に相應じ、有益なる修身談、えらい人の行狀、面白い話、可笑い事、美しい繪、爲めになる考物、活潑なる遊戲、小供諸君の作文などを載せたり。其面白いことは凧を揚げ、羽子をつくより面白く、其美しいことは錦繪の如く、愛らしきことは人形の如し。世の愛らしき子供諸君、此「こども」を取寄せ給へ、甚だ面白き友だちなり。世の敎育を重んずる方々、其の**子供の爲めに**此「こども」を取寄せ給へ、甚だ親切なる保傳なり。

發行所

東京府下北豐嶋郡上駒込村十九番地

少年園

通信教授　詩學專門

◎詩學振興ノ爲メ大ニ林黨ヲ海内ニ募ル郵券貳錢送附次第規則ヲ呈ス

陸奥國弘前百石町六番地
大日本天狗詩林

日本評論

第三號

四月十二日發行○定價金六錢●六部前金卅三錢●十二部同六十四錢●廿四部同一圓廿錢

目次

政治主義に關する管見(上)○個人主義と社會主義

寄書　何故に予は自由黨なる乎……大井憲太郎

何故に予は愛國公黨なる乎……植木枝盛

論説　鉄道に就て

歌　平和○懐古○短歌二首

寄書　商人道徳論

雑録　政治と社會主義○ビスマルク公の逸事○進歩○寄席と下等社會○獨逸の牢官報○落穂數件○時事數件○新刊雑書其他數件

發行所　東京麹町區三番町十番地　日本評論社

社告

鈴木弘恭大人講述

百人一首講義　普通製本　再版　價金三十五錢　郵送料四錢

右悉皆賣切れ候處尚ほ各地より續々御注文に相成候に付き至急再版に着手致し候間御入用の御方様は可成速に御申込可被下候然らざれば又々部數に不足を生じ御求めに應じかたき儀も可有之かと存じ候

通信女學　第四卷　價金三十二錢　全國一般無郵税

右例月の如く出版致し候に付き續々御注文の程奉願上候也

定價

一册。	六錢	郵税。五厘(但府内無郵税)
十册。	五十八錢	郵税。五厘(同前)
半年分	一圓四十三錢	府外は一圓五十六錢
一年分	二圓六十錢	府外は二圓八十六錢

廣告

一行	一回	前金拾錢(廿七字詰)
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道徳なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受くべし

女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

發行所　東京麹町區富士見町二丁目一番地　女學雜誌社

編輯兼發行人　東京麹町區富士見町二丁目一番地寄留　巖本善治

印刷人　東京神田區三崎町壹丁目十三番地寄留　森田豐

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

詩學專門 通信教授

詩學振興ノ為メ大ニ林黨ヲ海内ニ募ル郵券貳錢送附次第規則ヲ呈ス

陸奥國弘前白石町六番地
大日本天狗詩林

●日本評論 第三號

四月十二日發行○定價金六錢●六部前金卅三錢●十二部同六十四錢●廿四部同一圓廿錢

目次

政治主義に關する管見(上)○個人主義と社會主義

寄書 何故に予は自由黨なる乎……大井憲太郎

何故に予は愛國公黨なる乎……植木枝盛

論說 鉄道に就て

歌 平和○懷古○短歌二首

寄書 商人道德論

雜錄 政治と社會主義○ビスマルク公の逸事○進歩○寄席と下等社會○獨逸の牢官報○落穗數件○時事數件○新刊雜書其他數件

發行所 東京麴町區三番町十番地 日本評論社

社告

鈴木弘恭大人講述

百人一首講義 普通製本 **再版** 價金三十五錢 郵送料四錢

右悉皆賣切れ候處尚ほ各地より續々御注文に相成候に付き至急再版に着手致し候間御入用の御方樣は可成速に御申込可被下候然らざれは又々部數に不足を生じ御求めに應じかたき儀も可有之かと存じ候

通信女學 第四卷 價金三十二錢 全國一般無郵稅

右例月の如く出版致し候に付き續々御注文の程奉願上候也

定價

一册。	六錢	郵稅。五厘	(但府內無郵稅)
十册。	五十八錢	郵稅。五厘	(同前)
半年分	一圓四十三錢	府外は	一圓五十六錢
一年分	二圓六十錢	府外は	二圓八十六錢

廣告

一行(廿七字詰)	一回	前金拾錢
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德な事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受くべし女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

發行所 東京麴町區富士見町二丁目一番地 女學雜誌社

編輯兼發行人 東京麴町區富士見町二丁目一番地寄留 巖本善治

印刷人 東京神田區三崎町壹丁目十三番地寄留 森田豐

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY